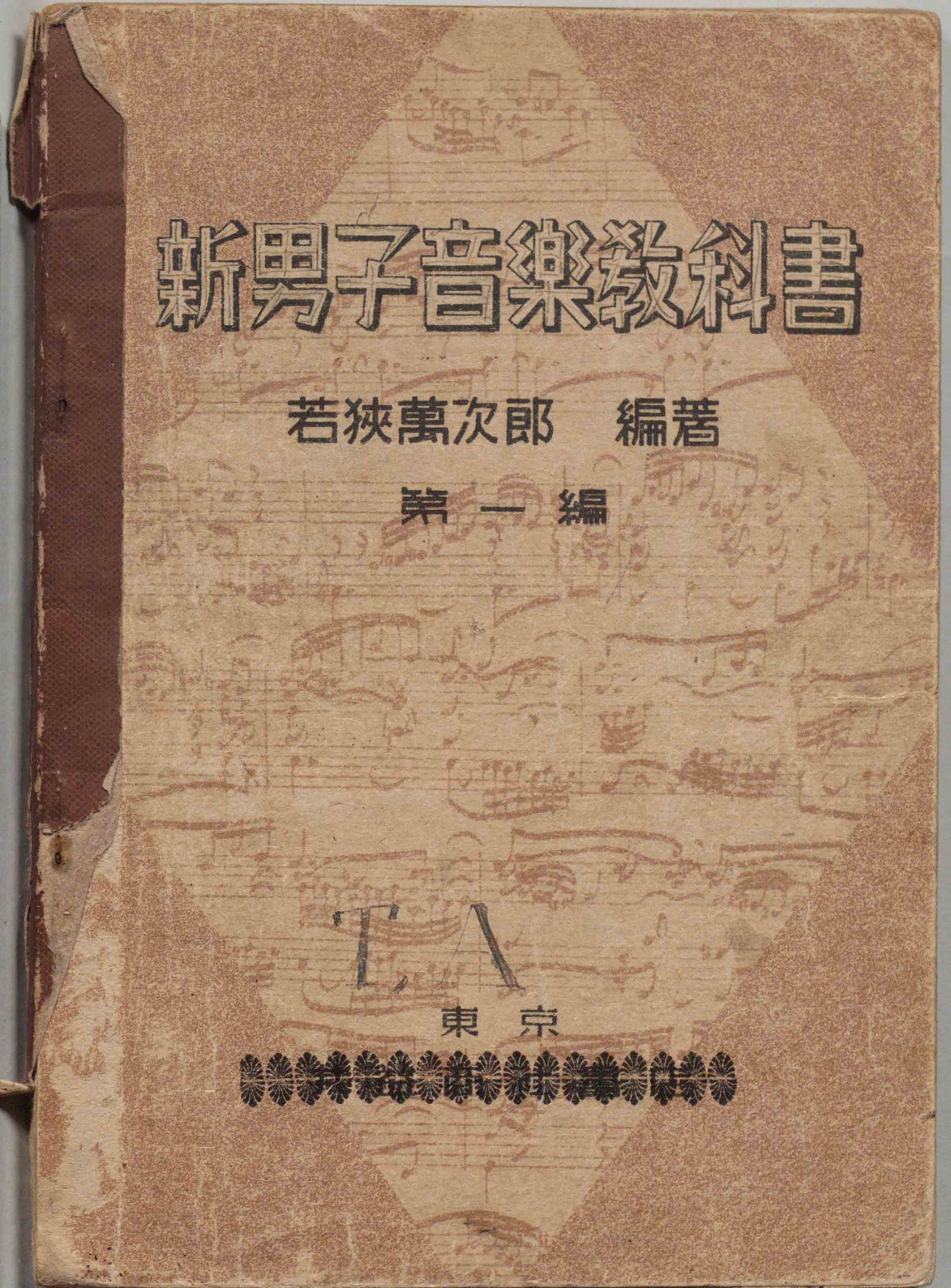
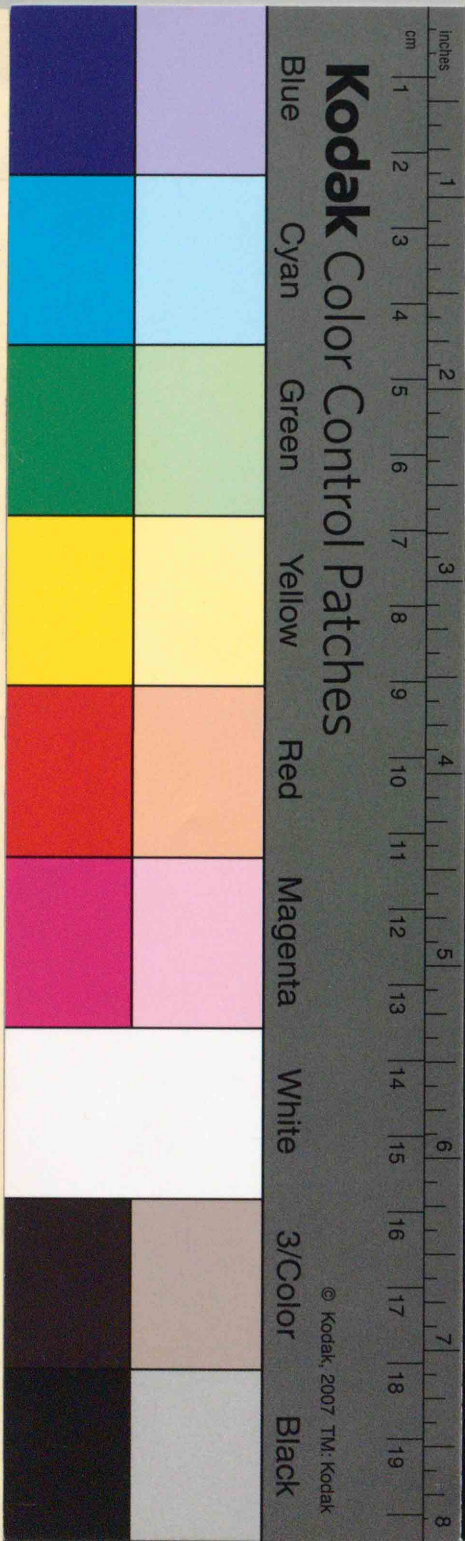


41070

教科書文庫

4
760
51-1935
01309 49399



中央図書館

広島大学図書

0130449399



昭和十年十二月二十七日
文部省検定済
師範學校・中學校音楽科

新男子音楽教科書

若狭萬次郎編著

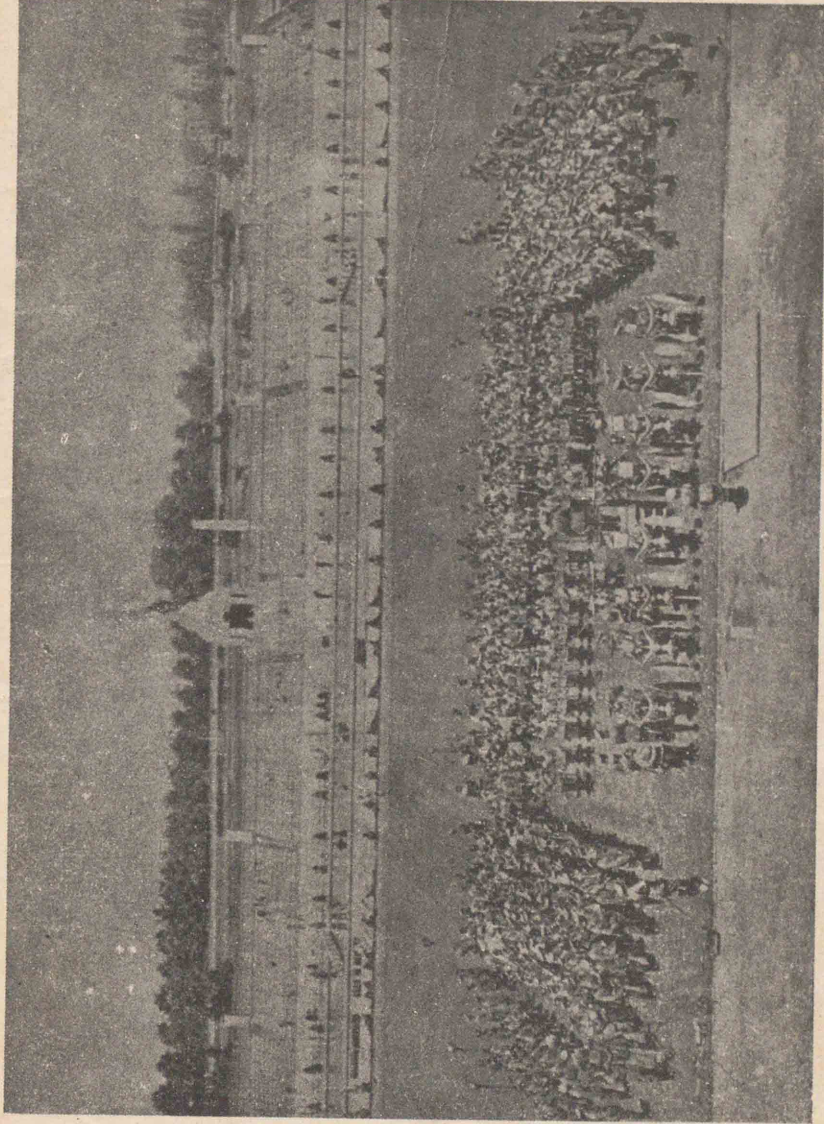
第一編



東京

合資 共益商社書店發行
會社

200



獨逸競技場(伯林)に於ける獨逸第三師管軍樂祭の演奏圖(約八〇〇名)

バッハ J. S. Bach (獨逸, 1685—1750) 新教宗教樂の最大作家, 古今無双のオルガン大家, フーガ形式の大成者, 平均率音階の採用者。世に近世音樂の祖と稱される。代表作は『聖マタイ受難樂』『聖ヨハン受難樂』『平均率ピアノ曲集』等。

ヘンデル G. F. Händel (獨逸, 1685—1759) 歌劇及びオラトリオの大家, オルガン大家。代表作はオラトリオ『メシヤ』『埃及に於けるイスラエル』『ユダス・マッカベウス』等。

ハイデン F. J. Haydn (奧太利, 1732—1809) 絃樂四重奏, 交響曲及び世俗的オラトリオの創始者。世に交響曲の父と稱される。代表作はオラトリオ『天地創造』『四季』, 交響曲『告別』『驚愕』『玩具』『軍隊』, 絃樂四重奏曲『皇帝』等。

モーツァルト W. A. Mozart (奧太利, 1756—1791) 音樂の各部門に互り最も世界的な天才的作曲家。代表作は歌劇『ドン・ジュアン』『魔笛』『フィガロの結婚』, 交響曲『ジュピター』, レーキエム等。

ベートーヴェン L. van Beethoven (獨逸, 1770—1827) 古典派よりローマン派に互る大巨匠。代表作は交響曲『英雄』『運命』『田園』『合唱』, 歌劇『フィアリオ』, ヴァイオリン・ピアノソナータ『クロイツェル』, ピアノ競奏曲『帝王』, ピアノ・ソナータ『月光』等。音樂の各部門に互つて多數の不朽の名作を残す。

ブラームス J. Brahms (獨逸, 1833—1897) 新古典派の巨匠。バッハ, ベートーヴェンと共に獨逸の偉大なる三Bと稱される。代表作は交響曲『第四』, ピアノ曲『へ短調のソナータ』, 『ハンガリヤ舞踏曲』, 『獨逸語のレキエム』, ヴァイオリン競奏曲『長調』等。



Bach



Mozart



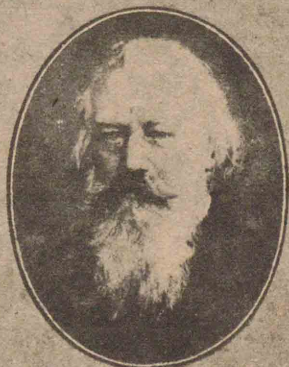
Händel



Beethoven



Haydn



Brahms



絃樂器の合奏圖



木管樂器の合奏圖

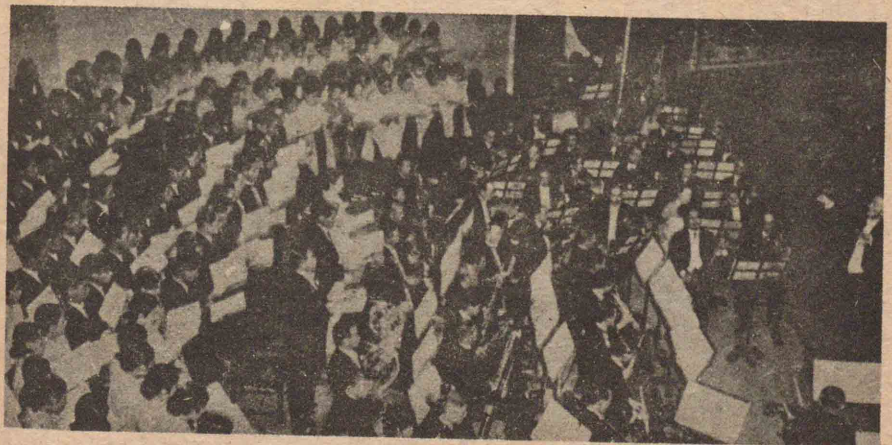
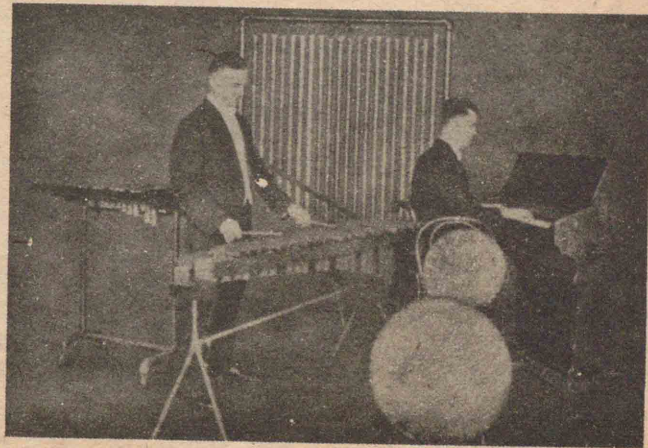


金管樂器の合奏圖

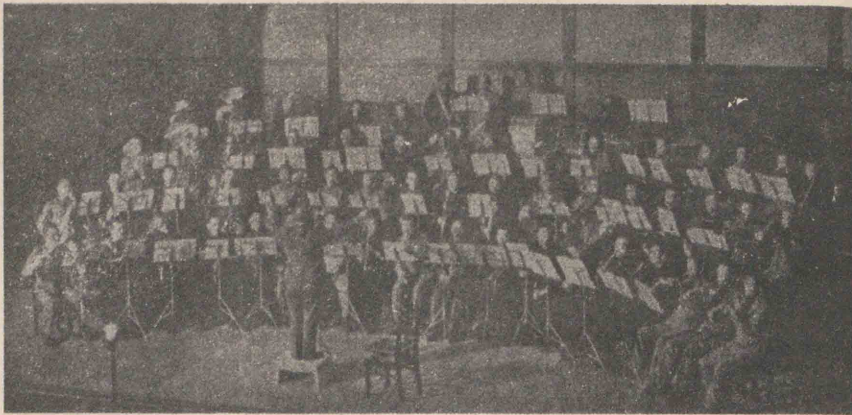


打樂器の演奏圖

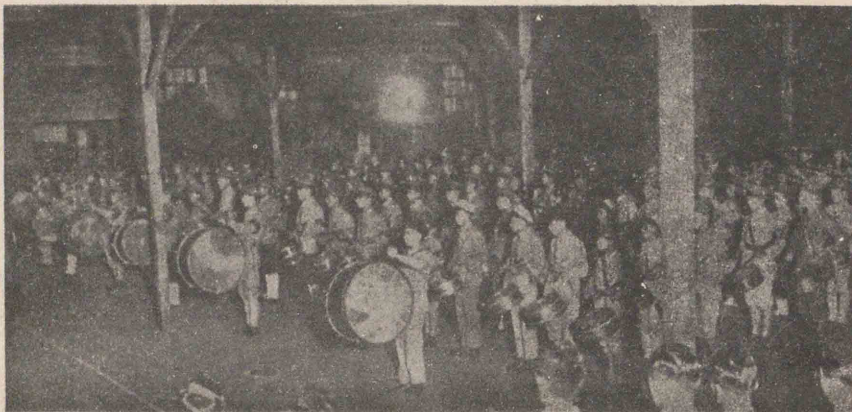
打樂器の演奏圖



獨唱・合唱及び管絃樂の演奏圖(東京音樂學校合奏團)



吹奏樂の演奏圖(陸海軍軍樂隊合同)



喇叭鼓隊の演奏圖(東京市聯合青年團)



マンドリンオーケストラの演奏圖

Adati Josio

緒 言

- 一 本書は師範學校、中學校の音樂科用教科書として編纂したものである。
- 一 教材を比較的多數に輯録したのは、増加教材或は鑑賞的教材の補充、又は情況による教授者の自由且適切な教材選擇の便益等に資せんが爲である。就中歌曲中の鑑賞參考曲等の如きは、卷頭の口繪寫眞と相俟つて、鑑賞的方面の適切な參考資料として特に輯録したものである。
低學年の部に於ては、歌曲の調子は之をなるべく音階構成の順序に従つて並べることには留意したが、又讀譜上の單調なのを補はんが爲に所々に參考的に他の調子をも交へて置くことにした。
- 尙歌詞中に作者名の記載してないものはすべて編著者の編作に係るものである。
- 一 終に、本書の編纂にあつて、多大の援助を與へられた先輩諸大家の厚き好意に對しては、深く感謝の意を表する次第である。

昭和九年九月

編 著 者 識

新男子音楽教科書

第一編

目次

基本教練

音階練習..... 1
 讀譜練習..... 2
 音程練習..... 6
 複音練習.....10

歌曲

春.....^曲14...^歌14
 里の小川.....15...15
 若き生命.....16...16
 水城.....17...18
 遠足.....19...18
 明日は日曜.....20...21
 榮光(鑑賞参考曲) ...22...21
 谷間のせせらぎ.....23...23
 朝露.....24...24
 夕映.....25...25
 嵐.....26...26
 水上の樂の音(鑑賞参考曲) ...27...28
 獵夫の歌.....29...28
 谷間の一つ家.....30...30
 樂しき森.....31...31

湖畔の曉(鑑賞参考曲) ...32...32
 戀しき我が家.....33...33
 野中の薔薇.....34...34
 月影.....35...35
 春を讃へん(鑑賞参考曲) ...36...36
 演習.....37...37
 起て我が友.....38...39
 荒城の月.....40...39
 秋晴.....41...41
 五月の朝(鑑賞参考曲) ...42...42
 騎行.....43...44
 我等の海原.....45...45
 秋の山路.....46...46
 この國この君.....47...48
 ローレライ(鑑賞参考曲) ...49...50
 さらば故郷.....51...52
 秋の散歩.....53...54
 故郷の廢家.....55...54
 歡喜(鑑賞参考曲) ...56...56
 春へのあこがれ(鑑賞参考曲) ...57...57
 スキーの歌.....58...58
 歳暮.....59...59
 遠別離.....60...60

春の光.....61...62
 畏き御代(鑑賞参考曲) ...63...64
 ドナウの漣(鑑賞参考曲) ...65...67
 春の小川.....68...68
 郭公.....69...69
 晨の鐘.....70...70
 天地創造(鑑賞参考曲) ...71...72
 祖國.....73...72
 高嶺.....74...75
 軍艦(参考曲).....76...75
 日本陸軍の歌(参考曲).....77...78
 抜刀隊(参考曲).....79...80
 海軍記念日の歌(参考曲).....81...82

樂典

1. 音名.....83
 2. 全音程と半音程.....85
 3. 譜表.....85
 4. 音部記號.....86
 5. 音符.....87
 6. 休止符.....89
 7. 拍子.....90
 8. 音階(其の一).....94
 9. 音程(其の一).....96
 10. 變化記號.....96
 11. 速度標語.....98
 12. 發想標語並に發想記號100

13. 雜記號102
 14. 反復記號103
 15. 音階(其の二)104
 16. 音程(其の二)108

附錄

The cuckoo.111
 The mill.112
 The bell is ringing.113
 Cradle song. (鑑賞参考曲).....114
 Old folks at home.....115
 Auld lang syne.117
 God save the King.118
 My country.119
 滿洲國國歌120

君が代.....^歌121...^曲121
 勅語奉答.....122...123
 紀元節.....124...123
 一月一日.....125...125
 天長節.....126...126
 明治節.....127...128
 創立記念日.....129...130
 萬歲.....131...130

音階練習

1.

2.

3.

4.

5.

6.

7.

8.

讀譜練習

ト長調

1.

2.

3.

讀譜練習

ハ長調

1.

2.

3.

4.

5.

6.

7.

ハ長調

1.

2.

3.

Handwritten musical notation on the left page, consisting of eight staves. The notation includes treble clefs, a key signature of one flat (B-flat), and a 2/4 time signature. The music features various rhythmic patterns and melodic lines.

二長調

Handwritten musical notation for the second system on the left page. It includes a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a 2/4 time signature. Below the staff, there are Japanese characters and their corresponding Latin letters: Sol, La, Si, Do, Re, Mi, Fa, Sol, La, Si, Do, Re, Mi, Fa.

Handwritten musical notation on the right page, consisting of eight staves. The notation includes treble clefs, a key signature of one flat (B-flat), and a common time signature (C). The music features various rhythmic patterns and melodic lines.

變口長調

Handwritten musical notation for the second system on the right page. It includes a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a common time signature (C). Below the staff, there are Japanese characters and their corresponding Latin letters: Si, Do, Re, Mi, Fa, Sol, La, Si, Do, Re, Mi, Fa, Sol, La.

17.

18.

19.

20.

1.

2.

3.

音程練習

二度音程

1.

2.


3.


變木長調

1.

2.


3.

4. 

5. 

6. 

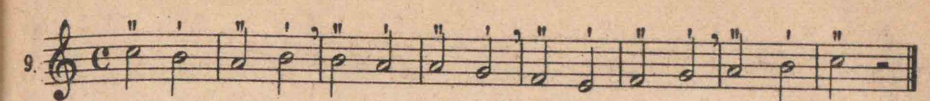
7. 


8. 


1. (和聲的短音階) 1 短 調 

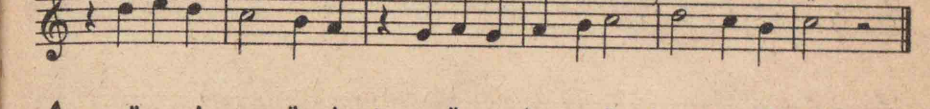
2. (旋律的短音階) 

3. 


9. 


10. 


11. 





12. 

輪 唱 練 習

1. 

2. 

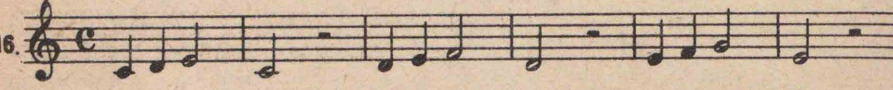


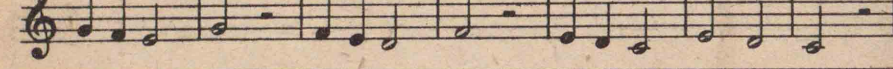
3. 

13.    

三度音程





長 短 短 長 長 短 短



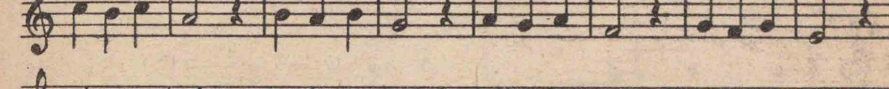
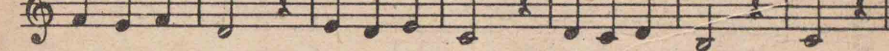






16.    

4.  


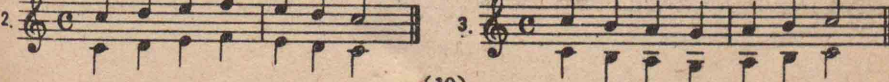
5.  

17.    

18.    

19.    

複音練習

1.  

3. 

20.

21.

22.

23.

24.

4.

5.

25.

26.

27.

28.

29.

6.

7.

30.

31.

32.

33.

8.

9.

10.

春

Moderato.

Silcher.

mf

一. コ マ ツ ガ ハ ラ ア メー ハ レ テ
 二. の き ば の は な た づー ね き て
 三. ナ ハ シ ロ ミ ツ ア ゼー コ シ テ

ヒ バ リ ア ガ ル ハ ル ノー ア シ タ
 こ て ふ ね む る は る のー ひ な か
 カ ハ ヅ ス ダ ク ハ ル ノー ユ フ ベ

三 苗代水 蛙越して
 蛙すだく 春の夕

二 軒端の花 尋ね来て
 胡蝶眠る 春の日中

一 小松が原 雨晴れて
 雲雀揚がる 春の朝

春
 堀澤 鹿 峽

里の小川

Moderato. *mf* Jacob.

一 ト ヤ マ ノ ス ソ ラ ト ホ ク ヌ ヒ テ
 二 さ さ ぶ ね う か べ め だ か あ さ り
 三 ム カ シ モ イ マ モ キ ヨ ク ス ミ テ

サ ト ヨ リ サ ト ヘ ハ シ ル ラ ガ ハ
 な が れ に む つ ぶ わ ら べ た の し
 ナ ガ レ ハ タ エ ヌ サ ト ノ ラ ガ ハ

一 外山の裾を 遠く縫ひて
 里より里へ 走る小川

二 笹舟浮べ 目高漁り
 流に陸ぶ わらべ楽し

三 昔も今も 清く澄みて
 流は絶えぬ 里の小川

里の小川

犬童 球 溪

若き生命

Allegretto. Fröhlich.

一 ノ ビ ヨ ノ ズ エ ノ ク サ ワ
 二 つ ど へ わ ー が ー と も か

カ ミ ド リ シ ル ク ア マ ツ ヒ カ リ ノ
 ん ば せ も わ か く あ か き ち し ほ の

モ ト ソ ノ チ カ ラ ミ セ テ
 い ろ そ の ほ ほ に み せ て

若き生命

一 伸びよ 野末の草
 若縁しるく
 天津光のもと
 其の力見せて

二 集へ 我が友
 かんばせもわか
 紅き血潮の色
 其の頬に見せて

森 迫 武

水 城

Moderato.



一.ア マ タガコ コーロヒ トツニシ テ
二.か み かぜあ らーびい かづちなり



ミ ヅ キヲマ モールマ スラータケ ヲ
さ か まく な みーの お と すーさま じ



ヨ セ クルフ ネ ハ ヤ マ トソ ビ エ
く だ くる ち ぶ ね そ こ に し づ み



フ リ クル ヒ ヤ ハ ア メ トソ ソ グ
た ふ る る か ば ね う み を う づ む



イ ノ チヲニ ヘーニ ミ クーニノ タ メ
こ と ご と あ たーを つ くーしーが た の



ア タ ウチ ハ ラ フ イ ト イ サ マ シ
み づ き の な こ そ よ よ に の こ れ

水 城

小田 深藏

一あまたが心ひとつにして
水城をまもるますら武夫
よせくるふねは山と聳え
ふりくる火箭は雨と注ぐ
命をにへにみくのため
あたらちほらふいといさまし
二神風あらびいかづちなり
さかまく浪の音すさまじ
砕くるちぶね底にしづみ
たふるるかばね海をうづむ
ことごとあたを筑紫鴻の
水城の名こそ世世にのこれ

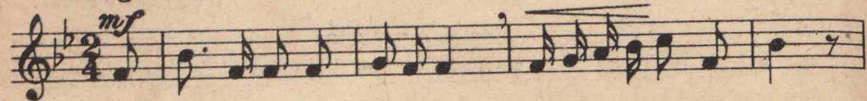
遠 足

一晴れ行く大空日は照りはえて
友どち打連れ遠足嬉し
さやかに聲する雲雀の高名告
燃ゆるや廣野は草の香こめて
二樹蔭も色濃き谷間の緑
友どち集ひて片敷く小草
尾根には雲飛び吹き來る青嵐
かたみに歌へば訝は高し
三一日の思出心にこめて
春く日ざしに迎るや家路
火照りし頬には涼風快く
里行く小川に夕映流る

遠 足

Allegretto.

ドイツ民謡曲



一. ハ レ ユ ク オ ホ ヅ ラ ヒ ハ テ リ ハ エ テ
 二. こ か げ も い ろ こ き た に ま の み ど り
 三. ヒ ト ヒ ノ オ モ ヒ デ コ コ ロ ニ コ メ テ



ト モ ド チ ウ チ ツ レ エ ン ソ ク ウ レ シ
 と も ど ち つ ど ひ て か た し く を ぐ さ
 ウ ス ツ ク ヒ サ シ ニ タ ド ル ヤ イ ヘ チ



サ ヤ カ ニ コ エ ス ル ヒ バ リ ノ タ カ ナ ノ リ
 を ね に は く も と び ふ き くる あ を あ ら し
 ホ テ リ シ ホ ホ ニ ハ ス ズ カ ゼ コ コ ロ ヨ ク

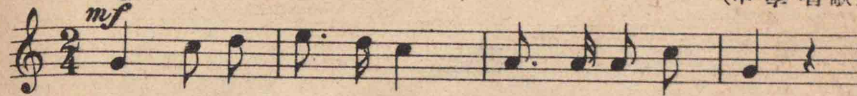


モ ユ ル ヤ ヒ ロ ノ ハ ク サ ノ カ コ メ テ
 か た み に う た へ ば こ だ ま は た か し
 サ ト ユ ク ラ ガ ハ ニ ユ フ バ エ ナ ガ ル

明日は日曜

Allegretto.

(中學唱歌)



一. ア ス ハ ニ チ エ ウ タ ノ シ キ ヒ
 二. あ す は に ち え う た の し き ひ
 三. ア ス ハ ニ チ エ ウ タ ノ シ キ ヒ
 四. あ す は に ち え う た の し き ひ



イ ー サ ム コ コ ロ ニ ウ チ ミ レ バ
 い つ し う か ん の ー う さ は ら し
 ノ ー ベ ノ ア ソ ビ ハ オ オ ソ レ ヨ
 い ー さ む こ こ ろ に う ち み れ ば



ツ ネ ニ ハ ク ラ キ コ ノ ラ ン プ
 や ー ま に あ そ ば ば う さ ぎ か り
 ベ ー ー ス ボ ー ル ニ タ マ ナ ゲ ニ
 こ よ ひ の そ ら は く も は れ て



コ ヨ ヒ バ カ リ ハ ヒ カ ル ナ リ
 か は に あ そ ば ば ポ ー ト こ ぎ
 メ ク ラ サ ガ シ ニ ハ タ ト リ ニ
 あ す は た し か に ひ よ り よ し

[鑑賞参考曲]

榮光

Bach.
編者 編曲

Andante con moto.



一. ホ ガ ラーニサヘヅルコ トリーノウタニモ
二. ひ ろ のーにさけ べる け も のーのこゑにも



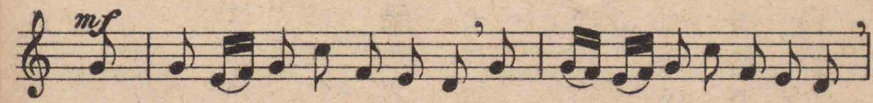
へ ダ テーナキカ ミーノ メ グミコモル
い や たーかきか みーの ち からひびく



キ ヨ ラーニハエタルコ ノハーノイロニモ
た か ねーの い は まに ほ ほゑむはなにも



カ シコーシヤカ ミーノ イ サラミテリ
か しこーしやか みーの い ぶきかかる



フ クカーゼフルアメア メーツーチモノミナ
わ たるーひてる つきあ めーつーちものみな



ア アヤーシクク シーキカー ミノーミワザ
あ あやーしくく しーきかー みーのーみわざ

(口繪寫眞参照)

明日は日曜日

(中學唱歌)

一 明日は日曜日 勇む心に 勇む心に 常には暗き 今宵ばかりは 一週間の 川に遊ばば 山に遊ばば 三明日は日曜日 野邊の遊は 二 明日は日曜日 勇む心に 勇む心に 目暗探に 旗取に 四 明日は日曜日 勇む心に 勇む心に 今宵の空は 雲晴れて 明日は確に 日和よし

榮光

森迫 武

一 ぼがらに囀る 小鳥の歌にも へだてなき 神の恵こもる 清らに映えたる 木の葉の色にも かしこしや 神の功満てり 吹く風降る雨 天地ものみな 二 廣野にさけべる 獸の聲にも いや高き神の ちからひびく 高嶺の岩間に ほほゑむ花にも かしこしや神の 息吹かかる 渡る日照る月 天地ものみな 三 あ あやしく奇しき神のみ業

谷間のせせらぎ

Tempo di marcia. ドイツ民謡曲

一、アハレナニヲカタルトタニマノ
 二、あはれなにをかたるこずゑの
 ナガレイシニフレテセセラギツ
 しらべたにのみづとよびかはす
 タノシキシラベトクスシキネイロ
 しぜんのをごとしぜんのつづみ
 トハニツッキズヒビクナリ
 とはにつつきずひびくなら

谷間のせせらぎ 森迫武

一 あはれ何を語る谷間の流
 石に觸れてせせらぎつ
 樂しき調奇しき音色
 とはに盡きず響くなり

二 あはれ何を語る梢の調
 谷の水と呼びかはす
 自然の小琴自然の鼓
 とはに盡きず響くなり

朝露

Moderato. ドイツ民謡曲

一、アサギリウスレヌ
 二、あさどり とひきぬ
 三、アサヒハ ノボリヌ
 カゼニサヤグイケノハチース
 まどをのぞき ささにすがーり
 オモテオコース ノベノチゲーサ
 シラツユ ユラユラ
 しらつゆ はらはら
 シラツユ キラキラ

朝露 堀澤鹿峽

一朝霧薄れぬ
 風にさやぐ池の蓮
 白露ゆらゆら

二朝鳥訪ひ來ぬ
 窓を覗き笹に縫り
 白露はらはら

三朝日は昇りぬ
 面起す野邊の千草
 白露きらきら

夕 映

Andante. Nägeli.

一. ア キ カ ゼ フ ク
 二. え い ぐ の ゆ め
 三. イ ノ ラ ン カ ナ

ノ ベ ト ホ ク シ ツ ム ヒ
 さ め て ほ く な ご り の
 ユ フ バ エ ニ タ ダ ワ レ

ノ ズ メ バ サ ビ シ ヤ
 い ろ こ そ あ か け れ
 モ ク シ テ イ ノ ラ ン

夕 映 宮田 勝三郎

一 秋風吹く 野邊遠く 沈む日望めば 淋しや

二 榮華の夢 覺めてゆく 名残の色こそ 赤けれ

三 禱らんかな 夕映に ただ我黙して 禱らん

嵐

Allegro. 小ロシア 民謡曲

一. ミ ヨ ヤ ア ラ シ ス サ メ ル アーラーシ
 二. み よ や あ ら し た け る よ あーらーし
 三. ミ ヨ ヤ ア ラ シ ス サ メ ル アーラーシ

ム レ ナ ス ク ロ ウ マ カ ケ ル ヤ ソ ラ フ
 き ほ へ る つ は も の セ む る や い づ こ
 フ タ ケ ビ ス ル ド ク ア シ オ ト ア ラ ク

ノ ラ コ エ モ リ コ エ ス ス ミ ニ ス ス ム
 い か く る も ぎ ん の や み だ る か あ め と
 ノ ラ コ エ モ リ コ エ ス ス ミ ニ ス ス ム

嵐 上田 壽四郎

一 見よや嵐 すさめる嵐 群なす黒馬 かけるや空を 野を越え森越え 進みに進む

二 見よや嵐 猛るよ嵐 勢へる兵 攻むるやいづこ 射かくる銀の矢 亂るか雨と

三 見よや嵐 すさめる嵐 雄叫鋭く 登音荒く 野を越え森越え 進みに進む

[鑑賞参考曲]

水上の樂の音

Händel 作
「水上樂」中のメヌエットによつて
編著者 編曲

♩ = 126.

一. サ ユラゲル カゼ ニ ガー ク ノ ネリ
二. み どりこき か げ に しー ら と

一. サ ユラゲル カゼ ニ
二. み どりこき か げ に

タ ユ タ ヒ ツ ワ タ レ ル
き よ ら か に う か べ る

がー ク ノ ネリ
しー ら と

ア ア ナ ミ モ ヒ カ ル ミ ノ モ ラ
あ あ な れ も き く か が ー く の ね

ガ ク カ ナ デ ユ ク ワ ガー フー ネ
た の し げ に ゆ く み づー の へ

(口繪寫眞參照)

水上の樂の音

上田壽四郎

一 さゆらげる風に

樂の音たゆたひつ

(さゆらげる風に樂の音)

わたれる

ああ なみも光る水のもを

樂かなで行くわがふね

二 みどり濃き影に

白鳥淨らかに

(みどり濃き影に白鳥)

泛べる

ああ 汝も聴くか樂の音

たのしげに行く水の上

獵夫の歌

牛山 充

一 さやかにこだまし聞ゆる

獵夫の角笛

あ あはれ その響

谷間に岡邊に遠く近く

とよみわたる

二 たちまち轟く銃音

吠えたつ獵犬

あ あはれ その叫

野山にとよみて遠く近くに

高く響く

三 獲物をにひて降りくる

獵夫の歌聲

あ あはれ その響

山邊に岡邊に高く低く

とよみわたる

獵夫の歌

ドイツ民謡曲

Allegro.

一 サ ヤ カ ニ コ ダ マ シ キ コ ユ
 二 た ち ま ち と ど ろ く つ つ お
 三 エ モ ノ ラ ニ ナ ヒ テ オ リ ク

ル サ ツ ラ ノ ツ ノ ブ エ ア ア ハ レ ソ ノ
 と ほ え た つ か り い ぬ あ あ は れ そ の
 ル サ ツ ラ ノ ウ タ ゴ エ ア ア ハ レ ソ ノ

cresc.

ヒ ビ キ タ ニ マ ニ ラ カ ベ ニ ト
 さ け び の や ま に と よ み て を
 ヒ ビ キ ヤ マ ベ ニ ラ カ ベ ニ タ

ホ ク チ カ ク ト ヨ ミ ワ タ ル
 ち に こ ち に た か く ひ び く
 カ ク ヒ ク ク ト ヨ ミ ワ タ ル

谷間の一つ家

Moderato.

一 シ ノ ノ メ ノ ヤ ブ カ ー ゲ ミ ツ サ ザ イ ナ ク
 二 た そ が れ の さ か み ち ふ る ぎ つ ね な く

ヨ セ ド ノ ハ ネ ツ ル ベ カ サ コ
 よ お も や の つ り ラ ン プ ほ そ ぼ

ソ ト ウ ゴ ク タ ニ マ ノ ヒ ト ツ ヤ
 そ と と も る た に ま の ひ と つ や

谷間の一つ家
 母屋の つりランプ
 ほそぼそと ともる

二 たそがれの さかみち
 ふるぎつね 鳴くよ

谷間の一つ家
 背戸のはねつるべ
 かさこそと うごく

一 しのめの やぶかけ
 みそさざい 鳴くよ

谷間の一つ家
 八波 則吉

楽しき森

Moderato.

スコットランド民謡曲

一. ヒカ ゲモササヌー コミ チ ラ バ ワケ
 二. おち ばをふめばーかさ こそ と おと
 三. コケ テヲヨヂテーノボリ コ シ オイ

イルモリノータノ シサヨハズ エラカスメ スギ
 するもりの一たの しさよこず 忍にうたふ こと
 キノモリノータノ シサヨイハ マヲモレテ ナガ

ユクカゼモ ソヨ ソヨソヨ トーカヨ ヒキテ
 りのこゑも チヨ チヨチヨ とーひび ききテ
 ルルミヅモ サラ サラサラ トーツタ ヒキテ

一 日影もささぬ小徑をば
 分け入る森の楽しさよ
 葉末を掠め過ぎゆく風も
 そよそよそよと通ひ来て

二 落葉をふめばかさこそと
 音する森の楽しさよ
 梢にうたふ小鳥のこゑも
 ちよちよちよと響き来て

三 苔路をよぢて登り来し
 老木の森の楽しさよ
 岩間を洩れて流るる水も
 さらさらさらと傳ひ来て

楽しき森

犬童 球 溪

[鑑賞参考曲]

湖畔の暁

Andante.

(二回目にpp)

Haydn 作
 交響曲「驚愕」中の主想によつて
 編著者 編曲

ジェネ ヴァノ ミノモ シヅカニ アケテ
 マキ バヲ マモル ワラベヤ フケル

ウツレル ヤマノ カゲキヨ シリ
 フエノネ トホク ヒビクナ リ

ミルマニ ヤマノハムラサキ ダチテ
 クモキノ カナターニソビユル ミネノ

ハレタル ソラニ アサヒーハーノボリ
 シラユキ バラノ イロニゾーニホフ

湖畔の暁

牛山 充

ジェネヴァの水の面 靜かにあけて
 うつれる山の 影きよし
 牧場をまもる 童や吹ける
 笛の音とほく ひびくなり
 見る間に山の端 紫だちて
 晴れたる空に 旭はのぼり
 雲居のかなたに 聳ゆる峯の
 白雪薔薇の 色にぞ匂ふ

戀しき我が家

Andante. Glück.

一. マガハノ一ナガレタマトクダケ一
 二. こまつの一はやしおびとつづき一

カカレル一クルマユルクメ一グル一
 この一まの一むねにけむりの一ぼる一

mf *f* *dim.* *p*

ウツツニ一ユメ一ニ一ウカブワガヤ一
 うつつに一ゆめ一に一うかぶわがや一

戀しき我が家
 森 迫 武

一 小川の流
 玉と碎け
 かかれる水車
 ゆるくめぐる
 うつつに夢に
 うかぶ我が家

二 小松の林
 帯と續き
 木の間の棟に
 けむりのぼる
 うつつに夢に
 うかぶ我が家

野中の薔薇

Allegretto. Werner.

一. ミドリ一ノカゲニウバラ一ノハナ
 二. すぎゆ一くのぢのうばら一のはな

アサオクツユノイロラ一モソメテ
 そよふくかぜにかをり一をおくり

キヨラ一ニサケリクレナキ
 きよら一にさけりくれなる

ニ一ホフノナカノウ一バラ
 に一ぼふのなかのう一ばら

野中の薔薇
 田崎 維男

一 みどりの蔭に
 うばらの花
 朝おく露の
 色をも染めて
 清らに咲けり
 野中のうばら

二 過ぎ行く野路の
 うばらの花
 そよ吹く風に
 香をおくり
 清らに咲けり
 野中のうばら

月 影

Andantino.

ドイツ民謡曲

一 テ ラ ス カ ツ キー カ ー ゲ タ カ
二 て ら す か つ きー か ー げ ひ ろ

ネ ノ ソ ー ラ ニ サ ビ シ ク カ カ
の の は て に き よ ら に う か

リ テ コ ヨ ヒ モ テ ラ ス コ ヒ
び て こ よ ひ も て ら す し た

シ キ チ ー チ ハ ハ イ マ ハ タ イ カ ニ
し き と も ど ー ち い ま は た い か に

一 照すか月影
高嶺の空に
淋しくかかりて
今宵も照す
戀しき父母
今はたいかに

二 照すか月影
廣野の果に
清らに浮びて
今宵も照す
親しき友どち
今はたいかに

月 影

宮田 勝三郎

[鑑賞参考曲]

春を讃へん

Andante grazioso.

Mozart 作
ソナタ「イ長調」の主題によって

一 ウ マ シ ノ ウ タ モ テ タ タ ヘ ン ハ ル ー ラ ー
二 う へ な き し ら べ に た た へ ン は る を

ア マ ツ ヒ ウ ラ ラ ニ テ ラ セ ル ハ ル ラ
あ め つ ち ふ た た び さ か ゆ る は る を

サ チ ア ル イ ノ チ ハ ノ ヤ マ ニ ア フ レ キー ギ ニ モ
か が や く い の ち は あ た り に み ち て も り に も

ク サ ニ モ ハ ナ ズ ニ ホ ヘ ル ハ ナ ズ ニ ホ ヘ ル
の べ に も と り ぞ う た へ る と り ぞ う た へ る

春を讃へん
牛山 充

一 う ま し の 歌 も て 讃 へ ン 春 を
あ ま つ 日 麗 ら に 照 せ る 春 を
幸 有 る 命 は 野 山 に 溢 れ
樹 樹 に も 草 に も 花 ぞ 匂 へ る
花 ぞ 匂 へ る

二 上 な き 調 に 讃 へ ン 春 を
天 地 ふ た た び 榮 ゆ る 春 を
輝 く 命 は あ た り に 充 ち て
森 に も 野 邊 に も 鳥 ぞ 歌 へ る
鳥 ぞ 歌 へ る

(口繪寫眞参照)

演 習

Tempo di marcia.

ドイツ民謡曲

一、タ ガヒニハナツオ ホーヅツノ ヒ ビキハママニコ
 二、た がひにせま一るて きーみかた い ちどにあぐ一ると

ダ一マシテ セ ウエンクロクノ ベラコメ オ
 きーのこゑ た んべいきふ にせ め よれば な

ホゾラカケールヒ カウキウナール ミ ヨヤミヨ一ヤケ
 だれをうち一てて きぞにぐ一る きけやきけ一やふ

ターテユク キヘイノムレーノイ サ一マシサ
 き一ならず ラッパのひびき一のい さ ましさ

一 互に放つ大砲の
 響は山に響して
 硝烟黒く野邊をこめ
 大空かける飛行機うなる
 見よや見よや蹴立てゆく
 騎兵の群の勇ましき

二 互に迫る敵味方
 一度にあぐる関の聲
 短兵急に攻め寄せれば
 雪崩をうちて敵ぞ逃ぐる
 聞けや聞けや吹きならす
 喇叭の響の勇ましき

演 習
 犬 童 球 溪

起て我が友

Allegretto.

一、ミ ヨ ヤ エウウン モノスゴク
 二、き け や だくらう やまをなし

ヒガシニ ニシニ ウヅマーキー オゴル
 み なみに きたに きしべ一を一おそふ

ネム一リラー サ一マシテ トコラケテ一ト
 ねむ一りを一さま一して とこをけて一と

ク タテ タテ ワレラガヒノモトセ
 く たて たて われらがひのものとせ

オフハワレーラ ココロヲ ヒートツニ
 おふはわれ一ら く にたみ は一ら一から

チカラヲ アハセ オソレズ ヒルマズ タワーマズ
 おいたる わかき いさみて ふるひて みく一にの

ラレズ オウ オウ タテワガトモ
 ために おう おう たてわがとも

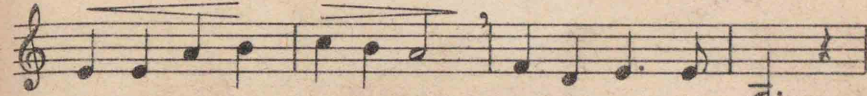
荒城の月

Andante.

瀧 廉太郎



一 ハ ル カ ウ ロ ウ ノ ハ ナ ノ エ ン
 二 あ き ち ん え い の し も の い ろ
 三 イ マ ク ウ ジ ャ ウ ノ ヨ ハ ノ ツ キ
 四 て ん じ ゃ う か げ は か は ら ね ど



メ グ ル サ カ ヅ キ カ ゲ サ シ テ
 な き ゆ く か り の か ず み せ て
 カ ハ ラ ヌ ヒ カ リ タ ガ タ ノ ズ
 え い こ は う つ る よ の す が た



チ ヨ ノ マ ツ ガ エ ワ ケ イ デ シ ム カ シ ノ
 う う る つ る ぎ に て り そ ひ し び か し の
 カ キ ニ ノ コ ル ハ タ ダ カ ツ ラ マ ツ ニ ウ
 う つ さ ん と て か い ま も な ほ あ あ く わ う



ヒ カ リ イ マ イ ズ コ
 ひ か り い ま い づ こ
 タ フ ハ タ ダ ア ラ シ
 じ ゃ う の よ は の つ き

起て我が友

大童 球 溪

一 見よや 妖雲ものすこく
 東に西に 渦巻き起る
 眠を醒まして 床を蹴て
 疾く起て起て
 我等が日の本 背負ふは我等
 心を一つに 力を協せ
 恐れずひるまず 撓まず折れず
 おう おう 起て我が友

二 聞けや 濁浪山をなし
 南に北に 岸邊を襲ふ
 眠を醒まして 床を蹴て
 疾く起て起て
 我等が日の本 背負ふは我等
 国民同胞 老いたる若き
 勇みて奮ひて 皇國の爲に
 おう おう 起て我が友

荒城の月

土井 晩 翠

一 春高樓の花の宴
 めぐる盃かげさして
 千代の松が枝わけいでし
 むかしの光いまいづこ

二 秋陣營の霜の色
 鳴きゆく雁の數見せて
 植うる劍に照りそひし
 むかしの光いまいづこ

三 今荒城のよはの月
 替らぬ光たがためぞ
 垣に残るはただかつら
 松に歌ふはただあらし

四 天上影は替らねど
 榮枯は移る世の姿
 寫さんとしてか今もなほ
 嗚呼荒城のよはの月

騎 行

Tempo di marcia. Zahn.

一. キ タ レ ト モ ヨー ノ リ テ カ ケ ン ト ホ
 二. ゆ く て と ほ く や ま ら け は し ひ と

ク ツ ツ ク ナ ハ テ ラ タ ツ ナ ヌ ル クー ム チ
 の み ち も か く こ そ な れ を た の む お の

ヲ ト レ バ ハ シ ル コ マ モ イ サ ム ヨ
 が こ の み こ こ ろ せ や わ が こ ま

ハ シ レ ハ シ レ ス ナ ヲ ケ タ テ テ カ ケ
 は し れ は し れ す な を け た て て か け

ヨ カ ケ ヨ ヒ ツ メ モ カ ロ ク
 よ か け よ ひ づ め も か ろ く

騎 行

犬 童 球 溪

一 來 友 友 よ 騎 り て 駈 け ん

遠 く つ づ く 暇 を

手 綱 ゆ る く 鞭 を 執 れ ば

走 る 駒 も 勇 む よ

走 れ 走 れ 砂 を 蹴 立 て て

駈 け よ 駈 け よ 蹄 も か ろ く

走 れ 走 れ 砂 を 蹴 立 て て

駈 け よ 駈 け よ 蹄 も か ろ く

二 行 手 遠 く 山 路 險 し

人 生 の 行 路 も 斯 く こ そ

汝 を 頼 む 己 が 此 の 身

心 せ よ や 我 が 駒

走 れ 走 れ 砂 を 蹴 立 て て

駈 け よ 駈 け よ 蹄 も か ろ く

走 れ 走 れ 砂 を 蹴 立 て て

駈 け よ 駈 け よ 蹄 も か ろ く

我等の海原

Andantino.

ロシア民謡曲
編著者編曲

mf

一. フケフケウミカゼシラナミタテヨウツ
二. をどれよとびうをさけべよかもめとび

マケクロシホタカナリヒビケカヒナハアカ
ちれしぶきよいろどれにじよまくらはたか

I.
ガネココロハイハホミドリノウナバラツレ
なみあらしもなにぞはてなきあ

II.
ラガハント うみわれらがらくど

一 吹け吹け海風 白波立てよ
うづまけ黒潮 高鳴りひびけ
腕はあかがね ころろは巖
みどりの海原 我等が版圖

二 をどれよ飛魚 さけべよ鷗
とび散れしぶきよ 彩れ虹よ
まくらは高浪 あらしも何ぞ
涯なき荒海 我等が樂土

我等の海原

上田 壽四郎

秋の山路

Allegro.

Maria Nathusiusの主意によつて

mf

一. アサツユフミテノボルヤマヂ
二. しがなくやまにゆふひおちて

アキカゼソヨトタモトカロシ
あしもとちかくくもぞせまる

mp

ラララララララララララ
ラララララララララララ

イザイザトモヨワレニツヅケ
いざいざともよいへぢいそげ

一 朝露踏みて登る山路
秋風そよと袂輕し
ラララララララララララ

いざいざ友よ我に續け
ラララララララララララ

二 鹿鳴く山に夕日落ちて
足もと近く雲ぞ迫る
ラララララララララララ

いざいざ友よ家路急げ
ラララララララララララ

秋の山路

堀澤 鹿峽

この國この君

Con spirito.

Schaw.



一.アサヒヨモヲテラセリ コレゾーミーク
二.そらになびくひのはた これぞーみーく



ニノゲニスガタナリケル タフ
にのげにひかりなりける めで



トキコノクニニゲニヤアマツヒカ
たきこのくーに たかくかかるあま



リノサナガラテラセルゴト シラ
つひ これこそわがみかどの げに



シタマフースメロギ カシコヤコノキー
もみをやなりけれ かしこやこのき



ミヨモノクニニヒイツル クニ
みよものくにひいづる くに



ノスガタメデタヤ チヨニツヅキーサカ
のすがためでたや ちよにつづきさか



ユク コノクニコノキーミ
ゆく このくにこのきみ

この國この君

森 迫 武

一 朝日四方を照せり
げに姿なりける
げにやあまつ光の
知し給ふすめろぎ
四方の國に秀づる
千代につづき榮ゆく
二 空になびく日の旗
げに光なりける
高くかかるあまつ日
げにも皇祖なりけれ
四方の國に秀づる
千代につづき榮ゆく
三 これぞ御國の
めてたきこの國
これこそわが帝の
かしこそわが帝の
かしこやこの君
この國この君
四 これぞ御國の
たふときこの國
さながら照せると
かしこやこの君
この國この君

[鑑賞参考曲]
ローレライ

Andante con moto. Silcher.

mp

一 ナ ジ カ ハ シー ラ ネ ド コ コー ロ ワー ビ
 ニ う る は し を ー と め の い は ぼ に た ー ち
 三 コ ギ ユ ク フー ナ ビ ト ウ ター ニ ア コ ガ

テ ー ム カ シ ノ ツ ー タ ヘ ハ ソ
 て ー こ が ね の く ー し と り か
 レ ー イ ハ ネ モ ミ ー ヤ ラ ズ ア

ゾー ロ ミ ニ シ ム ー サ ビ シ ク ク ー レ
 みー の み だ れ を ー と き つ つ く ち ず
 フ ゲ バ ヤ ー ガ テ ー ナ ミ マ ニ シ ー ツ

mf *dim* *mp*

ユ ク ラ イ ン ノ ナ ー ガ レ ー イ
 さ ぶ う た の こ ー ゑ の ー く
 ム ル ヒ ト モ フ ー ネ モ ー ク

リ ヒ ニ ヤ ー マ ヤ ー マ ア カ ク ハ ー ユ ル ー
 す し き ち ー か ら ー に た ま も ま ー よ ふ ー
 ス シ キ マ ー ガ ウ ー タ ウ タ フ ロ ー レ ラ イ

ローレライ

近藤 朔風

一 なじかは知らねど心わびて
 昔のつたへはそぞろ身にしむ
 寥しく暮れゆくラインの流
 入日に山山あかくはゆる

二 美し少女の巖に立ちて
 黄金の櫛とり髪のみだれを
 梳きつつ口吟ぶ歌の聲の
 くすしき力に魄もまよふ

三 こぎゆく舟びと歌に憧れ
 岩根も見やらず仰げばやがて
 浪間に沈むるひと舟も
 くすしき魔歌諸ふローレライ



ローレライ(Lorelei)はライン川の
 右岸、ドイツのヘッセン・ナッサウ州
 の聖ゴアルスハウゼンとカウプと
 の中間にある巨巖の名である。高
 さ百三十餘米、川を俯瞰して聳え、
 巖下は深潭を成してゐて昔からの

有名な難航所である。今は鐵道が
 此の巨巖を貫いて走つてゐる。古來、船人が此の巖上に金髪を梳つ
 てゐる水の精の美しい歌聲に魅せられて、我を忘れて遂には船諸共
 に水底に引き込まれるとの傳説が行はれてゐる。これは最初ブレン
 ターノが詩に歌つて有名になり、次いでガイベルが詩にしたのをメ
 ンデルスゾーンが作曲し、更にハイネが詩に歌つたのをジルヒェルが
 作曲するに及んで愈々有名になつたものである。

さらば故郷

Moderato.

ドイツ民謡曲



一. アヲ キヲカキヨ キヲガハヤシ ロノモリヨ
 二. ひとのよのなみはあらくまなびはかたし
 三. イマハトテワカレユケドムナシクナカージ



イザ サラバココロノコレドワカレヲツゲン
 をりにふれものにつけてはおもひやいでん
 ワザヲヲヘニシキカザリテカヘランココニ



オモヘバツゾロナミダサシグムサラバフルサート
 よそなるわれにちからあたへよさらばふるさと
 アヒミルヒマデマサキクアレヤサラバフルサート



ナゴリツキネドイザヤワカレンフルサトサラバ
 なごりつきねどいざやわかれんふるさとさらば
 ナゴリツキネドイザヤワカレンフルサトサラバ

さらば故郷

牛山充

一 あをき岡 清き小川 社の森よ
 いざさらば 心残れど 別を告げん
 思へばそぞろ 涙さしぐむ さらば故郷
 名残つきねど いざや別れん 故郷さらば

二 人の世の 波は荒く 學は難し
 をりにふれ ものにつけては 思ひや出でん
 よそなるわれに 力あたへよ さらば故郷
 名残つきねど いざや別れん 故郷さらば

三 いまはとて 別れゆけど 空しくなかじ
 業を卒へ 錦飾りて 歸らんここに
 相見る日まで まさきくあれや さらば故郷
 名残つきねど いざや別れん 故郷さらば

秋の散歩

Moderato.

天谷 秀

mf

ハ コ ニー ハー ミー チ ヌ マ ツ ム シ ス ズ ム シ
カ ゴ ニー ハー ア マ レ リ オ チ グ リ ブ ダ ウ

mp

マ ツ カ ゼ サ ー ム シ シ ロ ノ ア ー ト
ス ー ス キ ミ ダ ル ル コ セ ン チ ヌ ウ ー

pp

ク モ シ ロ ク ミ ズ ア ラ シ モ ミ ー チ バ ニ

mf

サ ス ヤ ユ フ ヒ ラ ソ ノ マ マ ニ ア ミ ニ ツ ク ラ ム

エ ニ ー カ カ ム ソ ラ タ カ ク コ コ ロ モ

キ ヨ シ ア ハ レ コ ノ ア キ ー ビ ヨ リ

ヤマニノーニ ワガユクトコロ ナベテイキタル

マナビノニハ タノシヤユカム キミモワレモ

ウレシヤユカム ケフモアスモ

秋の散歩

棟方 悌二

箱には満ちぬ 松蟲鈴蟲
籠にはあまれり 落栗葡萄
松風寒し 城の址
薄みだるる 古戦場
雲白く水青し 紅葉ばに
さすや夕日を そのままに
文に作らむ 晝にかかむ
空高く 心も清し
あはれこの 秋日和
山に野に 我が行く所
なべて活きたる 學の庭
樂しや行かむ 君も我も
嬉しや行かむ 今日も明日も

故郷の癡家

犬童 球 溪

一 幾年ふるさと来て見れば
咲く花鳴く鳥そよぐ風
門邊の小川のささやきも
なれにし昔に變らねど
荒れたる我が家に
住む人たえてなく
二 昔をかたるかそよぐ風
昔をうつすかすめる水
朝夕かたみに手をとりにて
あそびし友人いま何處
淋しきふるさとや
さびしき我が家や

故郷の廢家

Moderato.

Heys.
編著者編曲

mf

一 イクトセ フルサト キテミレ バゼ
二 むかしを かたるか そよぐか ぜ

サクハナ ナクトリ ソヨグ カゼ
むかしを うつすか すめる みづ

mp

カドベノ ラガハノ ササヤキ モテ
あさゆふ かたみに てをとりに

mf

ナレニシム カシニカハラネ ド
あそびしともびと いまいづこ

mp

アレタルキ ワガイへとニヤ
さびしき ふるさと

mp *mf*

スムヒトク
さびしき わがいなや

[鑑賞参考曲]

歡喜

Beethoven 作
交響曲「合唱」中より
編著者編曲

Allegro.

mp

一 ワガミニ フタタビ アフコト カタキ
二 あれきけ とりすら よろこぶこゑを

コノヒノ ヨロコビ ナニニタトヘム
あれみよ はなさへ たのしむいろを

mf

アメツチ ユルガセ モローゴエ アハセイ
やまかはとよもし もろてをあげてみ

一 ハヒテウタヘヤメテタキケフラ
一 くにのよろづよををしくよばむ

歡喜

我が身に再び
あふこと難き
此の日の歡
何に譬へむ
天地搖がせ
諸聲合せ
祝ひて歌へや
めでたき今日を

二 あれ聞け鳥すら
歡ぶ聲を
あれ見よ花さへ
樂しむ色を
山川とよもし
諸手を舉げて
御國のよろづよ
雄々しく呼ばむ

犬童
球
溪

(口繪寫眞参照)

[鑑賞参考曲]

春へのあこがれ

Andantino. Mozart.

一. ヨ ノ ヒ ト ミ ナ ノ イ ト フ フ ユ ヨ イ ザ ト ク ユ
 二. ひ ば り も は ち も ね む る ふ の よ い ざ と く す
 三. コ ウ シ モ ヤ ギ モ ウ ナ ジ ノ ベ テ コ テ フ モ ハ

cresc. mf

キ テ ハ ル ヨ キ タ レ マ キ パ モ ノ ベ モ ア
 ぎ て は る よ き た れ の が は の み づ も ぬ
 ナ モ ナ レ マ テ リ ミ ド リ ノ イ ロ ニ ヨ

mp p

ヲ ミ ワ タ リ ヒ ナ ギ ク ス ミ レ ニ ホ フ ハ ル ヨ
 る み わ た り こ う を ら む れ て を ど る は る よ
 モ ヲ カ ザ ル ヤ サ シ ク ワ カ キ ハ ル ヨ キ タ レ

春へのあこがれ

牛山 充

一世の人みな のいとふ冬よ
 いざとくゆきて 春よ來れ
 牧場も野邊も あをみわたり
 ひなぎくすみれ 匂ふ春よ

二雲雀も蜂も 眠る冬よ
 いざとくすぎて 春よ來れ
 野川の水も ぬるみわたり
 小魚ら群れて 躍る春よ

三仔牛も山羊も うなじのべて
 胡蝶も花も なれを待てり
 みどりの色に 四方をかざる
 やさしくわかき 春よ來れ

(口繪寫眞参照)

スキーの歌

♩ = 138.

ドイツ民謡

一. ア サ ヒ キ ラ ト ハ ユ ル ユ
 二. と び ぬ と り と か ろ く た
 三. タ カ キ ハ ラ ラ カ ケ リ ヲ

p mf

キノノヤマ ワ カウドハ ヤ モイ サミツド
 かきそばち の きぐつか たくそらをふま
 ドルココロ ソ ズロニワ ケルチカラアフ

ヒ テ キ ソ フ ワ ザ モ タ ヘ ニ
 ヘ テ た に を こ の る こ こ ち
 レ テ カ ホ ニ ノ ボ ル チ シ ホ

スキーの歌

森迫 武

一朝日きらと映ゆる
 雪の野山
 若人はやも
 勇み集ひて
 競ふ技も妙に

二 飛びぬ鳥と軽く
 高き阻路
 雪靴かたく
 空を踏まへて
 谷を越ゆる心地

三 高き原を駆けり
 躍る心
 そぞろに湧ける
 力溢れて
 顔にのぼる血汐

歳 暮

Andante. *p* ドイツ民謡曲

一 ア ハ レ コ ト シ モ ユ
 二 す ぎ し ひ と と せ か
 三 イ デ ヤ コ ン ト シ コ

メ ト ク ラ シ ヲ シ ム ヒ カ
 ヘ リ ミ レ バ キ セ シ コ ト
 コ ロ シ メ テ ケ フ ノ ク ヤ

ズ ト ハ ヤ モ ナ リ ヌ
 ド モ ハ ナ ラ デ
 ミ ラ マ タ モ セ ン ヤ

歳 暮

一 あはれ今年も
 夢とくらし
 惜しむ日數と
 早もなりぬ

二 過ぎしひと年
 願れば
 期せし事ども
 皆は成らで

三 いでや來ん年
 心しめて
 今日の悔を
 またもせんや

遠 別 離

Andante. *mf* (中學唱歌)

一 ホ ド ー ト ホ カ ラ ス タ ビ ダ ー ニ ー モ
 二 わ れ ー も ま す ら を い た づ ー ら ー に

タ モ ー ト ワ カ ツ ハ ウ キ モ ー ノ ー ラ
 そ で ー は ぬ ら さ じ さ は い ー へ ー ど

チ へ ー ノ ナ ミ デ ラ へ ダ ー ツ ベ キ
 い ざ ー い さ ま し く ゆ け ー や き み

ケ フ ー ノ ワ カ レ ラ イ カ ニ ー セ ー ム
 ゆ き ー て つ と め よ く に の ー た ー め

遠 別 離

(中學唱歌)

一 程遠からぬ旅だにも
 袂分かつはうきものを
 千重の波路を隔つべき
 今日の別をいかにせむ

二 我も益荒男いたづらに
 袖は濡さじさは言へど
 いざ勇ましく行けや君
 行きて勉めよ國のため

春の光

Allegretto.

Södermann.
編著者編曲

mp

一. ワ カ メ ズ メ グー ム ヤ マ ニ ノ ベ ニ
二. か す み の ま くー は た か く ひ く く

ユ ラ ユ ラ ハ ユー ル ハ ル ノ ヒ カ リ
ひ き は へ わ たー る み や ま の す そ

コ ト リ ノ コ エー ノ ソ ラ ニ ミ チ テ
ゆ き げ の み づー の ゆ る く な が れ

mf

ア マ ッ ガ ク ノ ネ ゲ ニ ア テ ニ シ
た に の せ せ ら ぎ げ に ゆ か し

p

ミ ヨ ヤ ト ホ コ ル ラ ノ ヘ ノ ハ ナ
は な よ り は な に う つ る こ て ナ

p

ミ ル メ モ ハ ル カ ラ チ ニ コ チ ニ
な た ね か す め て し ろ き は そ で

p

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ
ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

mf

ラ ラ ラ グ モ ト タ ナ ビ ク ゲ ニ ノ ド カ
ラ ラ ラ ひ ら と と び か ふ げ に の ど か

春の光

森 迫 武

一 若芽ぞめぐむ山に野邊に
 小鳥の聲の空に満ちて
 天つ樂の音げにあてに
 見よやと誇る尾上の花
 見る目もはるか遠に近に
 雲とたなびくげにのどか
 ラララ、、、

二 霞の幕は高く低く
 曳き映え渡る深山の裾
 雪解の水のゆるく流れ
 谷のせせらぎげにゆかし
 花より花にうつる胡蝶
 菜種かすめて白き羽袖
 ひらと飛び交ふげにのどか
 ラララ、、、

[鑑賞参考曲]

畏き御代

Händel 作
オラトリオ「メシヤ」中より
編著者 編曲

Allegro moderato.

カ シコヤ カ シコヤ カシ コヤ カシコヤ カ

シ—コヤ カ シコヤ カ シコヤ カシ

コヤ カシコヤ カ シ—コ ヤ ス メ ロ

ギノゾ ミタ マ フ カシ コヤ カシコヤ カシ

コヤ カシコヤ ミ イ ツ ハ ヨ モ ラ テ

ラ シ タ ミ ク サ シ ゲ リ サ カ —

ア フ ゲ ス メ ロ キ
mf cresc. sempre
ユ アフゲ ミ カド アフゲ ミ カド カシコヤ カシ

コヤ カシコヤ カシ コヤ カ シ コ

ヤ コヤ カ シ コ ヤ

畏き御代

畏や畏や 畏や畏や畏や

畏や畏や 畏や畏や畏や

天皇臨み給ふ

畏や畏や畏や畏や

御稜威は四方を照し

民草茂り榮ゆ

仰げ 天皇

(仰げ帝 仰げ帝)

畏や畏や 畏や畏や畏や

(口繪寫眞参照)

[鑑賞参考曲]

ドナウの漣

Ivanovici 作
同名のワルツによつて
編著者 編曲

Tempo di valse.

p

キ シ ニ タ テ ル キ
ミ ツ ニ ヤ ド ル ツ

ギ ノ サ マ ミ ノ モ ハ
キ ノ カ ゲ ソ ラ ニ ウ

シ ル フ ネ ノ カ ゲ
カ ブ ク モ ノ イ ロ

p

メ チ ノ カ キ リ ト ホ ク ウ ネ リ
メ チ ノ カ キ リ ウ ミ ト マ ガ フ

ウ ネ リ テ キ ヨ ク ア ラ キ
ミ ノ モ ニ キ シ ニ パ キ シ

ナ ミ タ テ ト ハ ニ ヤ マ ズ
ヲ ド ラ セ キ ヨ キ シ ラ ベ

ナ ガ ル ル オ ホ キ ド ナ
カ ナ ツ ル ア ラ キ ド ナ

I. II. *mf*

ウ カ ス メ ル
ウ カ セ タ ツ

ハ ル ノ カ ハ ベ ミ ツ ト リ
ヨ ハ ノ ミ ノ モ マ チ ノ ヒ

ユ キ ト マ ガ ヒ ク レ ユ ク
ユ メ ヲ ウ カ ベ ア ケ ユ ク

ア キ ノ ミ ツ ニ カ ハ キ リ
ア サ ノ キ シ ニ サ ザ ナ ミ

I. II.

ヒ ク ク ナ ビ ク
シ ラ ベ キ ヲ シ

ドナウの漣

岸に立てる樹樹の様 水の面走る舟の影
 目路のかぎり 遠くうねりうねりて
 清く碧き波立て 流るる大きドナウ
 とはにやまず 海とまがふ水の面に
 水に宿る月の影 空に浮ぶ雲の色
 目路のかぎり 海とまがふ水の面に
 金波銀波躍らせ 碧きドナウ
 清き調かなづる 水鳥雪とまがひ
 かすめる春の河邊 川霧低くなびく
 暮れゆく秋の水に 風立つ夜半の水の面
 街の灯夢を浮べ
 明けゆく朝の岸に 漣しらべきよし



ドナウ河 (Donau) 中部ヨーロッパの動脈たる大河。北アルプスの山中に發して北流しバヴァリヤ高原の水を集めて東流するイーゼル河は、東アルプスの溪谷から發するイン河と合してドナウ河となり、ウィーン附近に於て奥匈の平野を流れ、鐵門の險を過ぎてルーマニヤの平原に出で、ドブルヂア山地を北に巡り、更に東流して黒海に注ぐ。長さ約七百里、流域面積約五萬三千方里。ウィーン、ブダペスト、ベルグラード、ルスチュク、ガラツ等の繁華な河港を有し、河口よりバヴァリヤ高原上のウルム迄は船運の便がある。歐洲最大の可航範圍を有する國際河川であつて、列國に解放されてゐる。

春の小川

Andante.

I mp

一. サ ラ サ ラ サ ラ サ ラ ナ ガ ル
 二. ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら
 三. ヒ ラ ヒ ラ ヒ ラ ヒ ラ ヒ ラ ヒ ラ マ フ ヨ

mf

II mp

コウヲモヨロコブ ヲガハ サラサラサラサラ
 きしべにさきたる さくら ちらちらちらちら
 カスメルミソラノ コトリ ヒラヒラヒラヒラ

mf

キ ケ ヤ タヘナルナガレノ シ ラ ベ
 は な を うかべてながるる を が は
 カ ゲ ヲ ナガルルミノモニ ミ セ テ

一 さらさらさらさら流る
 小魚も喜ぶ小川
 さらさらさら聞けや
 妙なる流の調

二 ちらちらちらちら散るよ
 岸邊に咲きたる櫻
 ちらちらちら花を
 浮べて流るる小川

三 ひらひらひらひら舞ふよ
 かすめるみ空の小鳥
 ひらひらひら影を
 流るる水の面に見せて

春の小川

犬童 球 溪

郭 公

Moderato. スロウキヤ民謡

カッ コウ カッ コウ ミヤマノ トリ タットン タットン
 キコリノ ラノ ナク ネニ アハセテ ウチ
 ウツ オト マネテゾ ナク カッコウ カッコウ
 タニフカク タットン タットン ヒモスガ ラ

郭 公 牛山 充

カッ コウ カッコウ 深山の鳥
 タットン タットン 樵夫の斧
 啼く音にあはせて打ち
 打つおとまねてぞ啼く
 カッコウ カッコウ 谷深し
 タットン タットン 日もすがら

晨の鐘

Moderato. I mf

一. カネノネトホナリアサギリハレ
 二. かねのねたかなりみそらははれ
 II
 ナガキヨアケユクイトシヅカニ
 こころはすみーてのぞみにみつ
 III
 ア ア ワレタタシ
 あ あ われゆかん

晨の鐘 官田勝三郎

一 鐘の音遠鳴り 朝霧晴れ
 長き夜明けゆく
 いと静かに
 ああ 我立たん

二 鐘の音高鳴り 御空は晴れ
 心は澄みて
 望に充つ
 ああ 我行かん

[鑑賞参考曲]

天地創造

Haydn 作
オラトリオ「天地創造」中より
編者編曲

Allegro.

一 カ ミ ノ ミ ワ ザ イ ト モ カ シ コ
二 か み の み わ ざ い と も か し こ

カ ミ ノ ミ テ ニ コ ノ ヨ ハ ナ リ
か み の み て に こ の よ は な り

シ デ ハ メ グ リ テ
し ぢ は め ぐ り て

ヤ マ ベ ニ コ ト リ ハ サ ヘ ズ リ
さ ち に ぞ み て る く に な り

ミ ワ タ ス ノ ベ ニ ハ
こ こ く は み の り へ て

ヲ グ サ モ シ ゲ リ テ ハ ナ エ ム
あ め つ ち よ ろ こ び か が や く

(口繪寫眞参照)

天地創造

一 神の御業 いとも畏
神の御手に この世はなり
四時は回りに
山邊に 小鳥は囀り
見わたす 野邊には
小草も茂りて 花笑む

二 神の御業 いとも畏
神の御手に この世はなり
四時は 回りに
幸にぞ満てる 國成り
五穀は 稔りて
天地よろこび かがやく

祖國

一 東の海の
日出づるところ
我等が祖國
皇統連綿

二 仁義の道の
備はるところ
我等が祖國
皇統連綿

三 平和の民の
集まるところ
我等が祖國
皇統連綿

森 迫 武

祖 國

Allegro.

Methfessel.
編者者編曲

mf

一 ヒ ガ シ ノ ウ ミ 一 ノ ヒ
二 ジ ん ぎ の み ち 一 の そ
三 ヘ イ ワ ノ タ ミ 一 ノ ア

イ ツ ル ト コ ロ ワ レ ラ ガ ソ
な は る と こ ろ わ れ ら が そ
ツ マ ル ト コ ロ ワ レ ラ ガ ソ

コ 一 ク ク ヲ ウ ト ウ レ ン メ ン
こ 一 く く わ う と う れ 一 ん め ん
コ 一 ク ク ヲ ウ ト ウ レ ン メ ン

高 嶺

Andante.

Malan.

一 タ カ ネ 一 ラ 一 コ エ テ ヒ ハ
二 つ き ひ 一 の 一 か げ は わ が

イ 一 デ 一 ニ ケ 一 リ ワ ガ ナ ス 一
み 一 の 一 ま も 一 り む な し く 一

ワ ザ ラ 一 タ ス ケ ン タ 一 メ 一
な す な 一 し ば し の ひ 一 ま 一

ニ 一 ヒ ハ イ デ 一 ニ ケ リ
も 一 つ と め よ 一 は げ め

[参 考 曲]

軍 艦

Tempo di marcia.

瀬戸口藤吉



一. マ モ ル モ セ ム ル モ タ ロ ガ ネ ノ
二. い は き の け ぶ り は わ た つ み の



ウ カ ベ ル シ ー ロ ズ タ ノ ミ ナ ル
た つ か と ば 一 か り な び く な り



ウ カ ベ ル ソ ノ シ ロ ヒ ノ モ ト ノ ミ ク ニ ノ
た ま う つ ひ び き は い か づ ち の こ ぶ か と



ヨ ー モ ラ マ モ ル ベ シ マ ガ ネ ノ ー ソ ノ
ば 一 か り と よ む な り ば ん り の 一 は た



フ ネ ー ヒ ノ モ ト ー ニ ー ア タ ナ ス
う を ー の り こ え ー て ー み く に の



ク ニ ラ ー セ ー メ ヨ カ シ ー
ひ か り ー か ー が や か せ ー

高 嶺

(小學唱歌集)

一 高嶺を越えて

日は出でにけり

わがなす業を

たすけんために

日は出でにけり

二月日のかげは

わが身のまもり

空しくなすな

しばしのひまも

努めよはげめ

軍 艦

鳥 山 啓

一 守るも攻むるもくろがねの

浮べる城ぞたのみなる

浮べるその城日本の本の

皇國の四方を守るべし

まがねのその艦日の本に

仇なす國を攻めよかし

二 いはきの烟はわたつみの

たつかとばかり靡くなり

弾丸うつひびきは雷の

聲かとはかりとよむなり

萬里の波濤をのりこえて

皇國のひかり輝かせ

[参考曲]
日本陸軍の歌

陸軍戸山學校軍樂隊



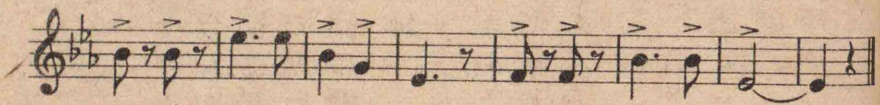
一、メイ チ テンワウ ミサト シノ ゴデウ ノ
 二、かう まの りけん ふりか ざし びだう の
 三、ホツ テン レウヤウ リョジュン コウバ の
 四、ふう うん さらに いくだ びウ あ の
 五、サン ゼン ネンノ クニノ ツイ イ
 六、とう あに がく ひやくね の



ヲシへる カシコレ ミテ ナガク ノ
 うてマン わがカキキチ シ一つん シ
 そらに あかれんとソソん いノ
 イツシ コトゴトク ユウ一
 きたさん わがしめい これぶ



マモリ タレ ハー タモ アサヒ ノ シルシ ナ ル
 せん えの さき の くの えい の りと し ノ
 イマニ シテ トキ ミテ ムスビ タの マンモ ウノ
 りよ トキ トキ ニムソん カフ ナニ アめ ト
 タン トキ トキ ニムソん カフ ナニ アめ ト



ワガ リク グン ノ ケン ダン ジ
 ああ わく こく の ため る ヘル
 ソラ トウ トウ の アサ ヒ タル
 しし てごせ ンニ アサ ヒ タル
 イあ わく ンニ アサ ヒ タル

日本陸軍の歌

一 明治天皇御諭の

五條の教かしこみて
 永く祖國の守たれ
 旗も旭のしるしなる
 わが陸軍の健男兒

二 降魔の利劍ふりかざし

無道を撃てるわが歴史
 日清日露戦役の
 先の光榮範として
 ああ皇國のため奮へ

三 奉天遼陽旅順口

同胞數萬紅き血を
 灑ぎし處今にして
 その實結びて滿蒙の
 そら瞳瞳の旭照る

四 風雲さらに幾たびか

東亞の空に暴れんとき
 進退ともに義によりて
 生きて至尊のため勤め
 死して護國の靈たらむ

五 三千年の國の粹

一兵一士ことごとく
 勇の權化と立たんととき
 正面に向ふ何ありや
 一もて千に當るべし

六 東亞に永く百年の

平和來さんわが使命
 これ文これ武備はりて
 世界惱ます魔に勝たむ
 ああ皇軍は神の劍

土井 晩翠

[参 考 曲]
拔 刀 隊

♩ = 114.
mf Leroux.

ワレハ クワンダシ ワガテキ ハ テンチ イレザル
テウ テキ ゴ テキノ タイシャウ タルモノ ハ
ココン ムサウノ エイユウニ テ コレ ニ シタガフ
ツハモノ バ トモニ ヘウカン ケツシノ シ
キジンニ ハヂヌ ユウアル モ テンノ
ユルサヌ ハンギヤク ラ オコセシ モノハ
ムカシヨ リ サカエシ タメシ アラザル ゴ

テ キノ ホロブル ソレマデ ハ ススメヤ
ス スメ モ ロトモ ニ タマチル ツルギ
ヌキツレ テ シスルカ クゴニテ ススム ベシ

拔 刀 隊

外 山 正 一

我は官軍我が敵は
天地容れざる朝敵ぞ
敵の大將たるものは
古今無双の英雄にて
これに随ふつはものは
共に慄悍決死の士
鬼神にはぢぬ勇あるも
天の許さぬ反逆を
起せし者は昔より
榮えしたためしあらざるぞ
敵の亡ぶるそれまでは
進めや進め諸共に
玉散る劍抜きつれて
死する覺悟にて進むべし

[参考曲]

海軍記念日の歌

Tempo di marcia.

海軍軍楽隊



一、ワガクウコクノコウハイヲ
 二、たふときちをもものせぬ
 三、アケユクウミノハテトホク
 四、きうせんまんのたみこぞり



コノイツセーニニナヒツツニツポ
 まーすらたけをのちのうれつにそそ
 カガヤキワタルヒノミハタフナヂ
 れきしのまーきにきざまれしえい



カイジャウキャウテキヲクーダキシヅメ
 みたましづめんとわがおほきー
 ギハフアヤナミニニノビユクウー
 たかきおもひでにこころのひー



ヨロヅヨニクニノーイシーズエサ
 おほみこといただーくむーねのた
 ダイニッポンヨモニーヤスーミニ
 しむるときせんざーいつーねにお



ダメタールーカガヤクケ
 かんなりーにーひびかきも
 ほいなーるーせいキに



フノキネンビョー
 かしなみのとお
 ーしアフギと
 ーラヤまだ
 ーハやま
 ーへ
 ー

海軍記念日の歌

海軍軍事普及部

一 我が皇國の興廢を

此の一戦に擔ひつつ

日本海上強敵を

碎き沈めて萬代に

國の礎定めたる

輝く今日の記念日よ

二 尊き血をもものとせぬ

益荒猛男の忠烈に

祖宗のみ靈鎮めんと

我が大君の大勅

いたたく胸の高鳴りに

響くも高し波の音

三 明け行く海のはて遠く

輝き渡る日の御旗

船路賑ふ綾波に

伸びゆく海の大日本

四方に八隅に建國の

高き理想を仰ぎつつ

四 九千萬の民こそぞり

歴史の巻に刻まれし

榮光高き思出に

心の緒を締むる時

千載つねに大いなる

正義に奮へ大和魂

樂典

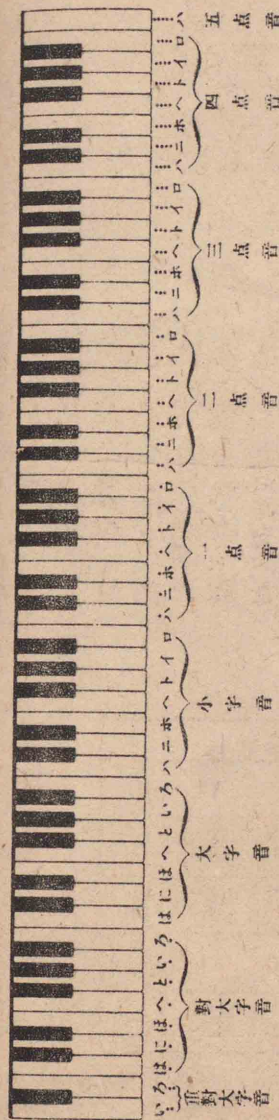
1. 音名

音楽に使用される音の数は非常に多いが、之を仔細に検するときには、之等の中全く其の性質を異にするものは僅に七個であつて、之を**基本音**又は**基礎七音**と稱し、これらの各音に附された名稱を**音名**と稱する。

次に我國に於て使用される音名と歐米諸國のそれとを比較對照して示す。

國別	音名						
日	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ
英・米	C̣	Ḍ	Ẹ	F̣	G̣	Ạ	Ḅ
獨	C̣	Ḍ	Ẹ	F̣	G̣	Ạ	Ḥ
佛	Ut	Re	Mi	Fa	Sol	La	Si
伊	Do	Re	Mi	Fa	Sol	La	Si

尙之等の七個の音名は其の字體を變へ又更に之に記號を附記する等の方法によつて殆ど音楽上の全使用音に對して使用される。



次に反復重用された基本音の音列について、之を左のピアノ鍵盤圖と對照して説明する。

1. 大字又は記號によつて示されてゐる同名の音は、其の振動數が互に倍數の關係によつて反復重用されてゐるものであつて、全く同一性質のものである。

2. 同名の二音によつて挿まれてゐる區間は之を**オクターヴ** (octave) と稱する。octaveなる語は、又或音より其の上方又は下方の第八番目の同名の音を指示するためにも用ひられる。

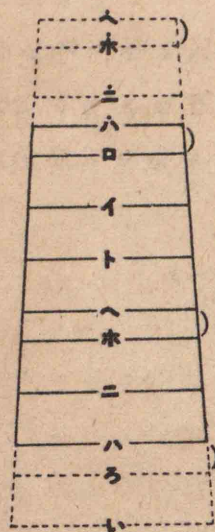
3. 音列中の諸音は、例へば $\overset{\cdot}{\underset{\cdot}{\text{ロ}}}$ は重對大字 ロ 、 $\underset{\cdot}{\text{イ}}$ は小字 イ 、 $\overset{\cdot}{\underset{\cdot}{\text{ホ}}}$ は二點の ホ 等の如くに呼ばれる。但し、それらの譜表上の位置を明示する必要の無い場合には、例へば單に ロ 、 イ 、 ホ 等の如くに呼ばれる。

4. 上記の鍵盤圖中、之等七種の基本音名の配されてゐる部分はすべて白鍵

なるが故に、基本音は俗に白鍵音とも呼ばれてゐる。

尙各音の高さは一點 イ の振動數(435 複振動)を基準として國際的に一定されてゐる。

2. 全音程と半音程



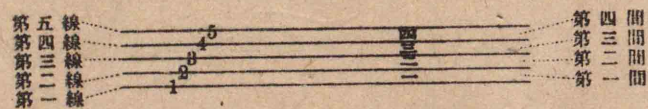
相連る二個の基本音の隔度には大小の區別がある。

然して其の大なるものは**全音程**(又は全音),小なるものは之を**半音程**(又は半音)と稱し,全音程は半音程二個に相當するものである。基本音列中,ホーへ及びローハは半音程,其の他の隣接二音間はすべて全音程である。

3. 譜表

譜表は音の高低を表示するために用ひられるものであつて,五個の等長等間隔の並行直線によつて組立てられてゐる。

相隣れる二線によつて挿まれた部分は之を間と稱し,線と間とは夫々下方より順次上方に向つて下圖の如くに名稱が附されて居る。



音を表示するには線と間とが併用され,其の位置の高低によつて音の高低が表示される。

第五線の上よりも更に高い音又は第一線の下よりも更に低い音を記載するには,直線の短いものが五線と等間隔並行に書き添へられる。之を**加線**と稱し,加線が五線よりも上方のものには下方より,下方のものには上方より夫々下圖の如くに其の順序を示した名稱が附される。



4. 音部記號

譜表の或線上に置き,其の線上に記載された音の名稱及び高度を決定する記號は之を**音部記號**と稱し,譜表の始に記載される。

音部記號中その重なるものは**ト音記號**(又は高音部記號)及び**ヘ音記號**(又は低音部記號)の二種である。

ト音記號



ヘ音記號



高音部譜表 ト音記號を譜表の第二線上に附記したものは之を**高音部譜表**と稱する。本譜表に於ては第二線をト音とし、他のすべての音の名稱は之を基準として決定されること下圖の如くである。



低音部譜表 ヘ音記號を譜表の第四線上に附記したものは之を**低音部譜表**と稱する。本譜表に於ては第四線をヘ音とし、他のすべての音の名稱は之を基準として決定されること下圖の如くである。



大譜表 高音部譜表と低音部譜表とを縦線と括弧とによつて連結したものは之を**大譜表**と稱し、兩譜表は中央ハの一加線によつて互に連接させられてゐる。



5. 音 符

音を表示する記號は之を**音符**と稱する。音符は其

の形状によつて其の價値を示すとともに、また譜表上の符頭の位置によつて音の高低をも示すものである。

重なる音符の種類、形状及び價値を表示すれば次の如くである。

名 稱	全 音 符	二 分 音 符	四 分 音 符	八 分 音 符	十 六 分 音 符
形 狀					
價 値	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$

音符の名稱は全音符の價値を一として各音符の之に對する價値の割合を示してゐる。

尙詳細に各音符相互の價値の比較關係を表示すれば次の如くである。



附點音符 符頭の右側に一點又は二點を附した場合には、其の音符は次の如くに其の價値を増すものである。

附点音符	複附点音符
價値	價値

6. 休止符

音の黙止を表示する記號は之を**休止符**又は**黙符**と稱し、其の價値はすべて音符のそれと同一である。

次に重なる休止符の種類、形狀及び價値を音符のそれと比較對照して示す。

休止符	名稱	全体止符	二分休止符	四分休止符	八分休止符	十六分休止符
	形狀	—	—	∩ 又は ∪	γ	γ
	價値	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$
音符	名稱	全音符	二分音符	四分音符	八分音符	十六分音符
	形狀	○				
	價値	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$

附点休止符 休止符の右側に一點又は二點を附した場合には、音符の場合と同様に其の價値を増すものである。

7. 拍子

樂曲の進行に於ては常に音勢 (accent) を有する音と然らざるものとが規則正しく一定の時間内に現れるものであつて之を**拍子**と稱し、音勢を有する音を**強部**、然らざるものは之を**弱部**と稱する。

拍子には二拍子と三拍子との二種がある。

一強部と一弱部とよりなるものは**二拍子**、一強部と二弱部とよりなるものは之を**三拍子**と稱し、尙此の二つを**拍子の原型**とも、また**單純拍子**とも稱する。

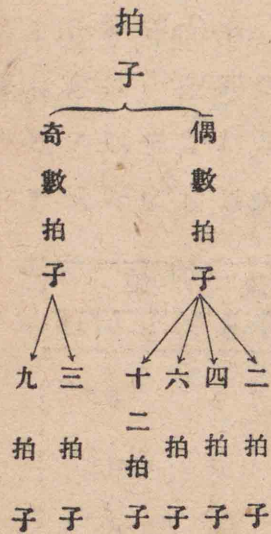


他の拍子はすべて此の二種の拍子の反復又は組合せによつて生ずるものであつて之を**複合拍子**と稱し、強部の音勢の量の上に差異あることによつて**單純拍子**と區別される。



尙二拍子並に、二拍子二個の複合によつた四拍子、三拍子二個又は四個の複合によつた六拍子又は十二拍子は偶數拍子、

三拍子並に、三拍子三個の複合によつた九拍子は又奇數拍子とも稱される。



縦線 楽曲の最強部毎に之を明示するために設けられた譜表上の區劃線は之を**單縦線**又は**單に縦線**と稱し、縦線の右側は常に最強部である。

但し最初の最強部の前には、之に対する縦線は省略されるものである。

複縦線 音勢とは無關係に楽曲中の主要な段落を明示するために二つの直線によつて設けられた譜表上の區劃線は之を**複縦線**と稱し、楽曲の終末を示すために用ひられるものにあつては、通常右方の線が左方のものよりも太く記される。

ために用ひられるものにあつては、通常右方の線が左方のものよりも太く記される。



小節 相隣れる二個の縦線によつて挿まれた譜表上の一區劃は之を**小節**と稱する。

拍子記號 拍子の種類を表示する記號は之を**拍子記號**と稱し、常に楽曲の起首、調子記號の直次に記載され、一拍に數へる音符の名を示す數字を分母、一小節内に有する拍數を示す數字を分子とした分數形のものをして其の記號とする。但し四分の四拍子の場合に於ては C 、二分の二拍子の場合に於ては \mathcal{C} を以て其の拍子記號とするのを常例とする。次に之を表示する。

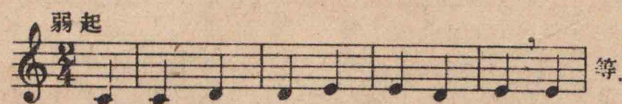
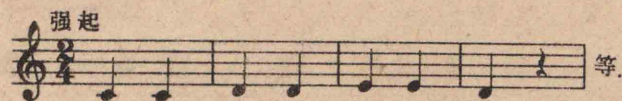
單純拍子	複合拍子
\mathcal{C} 又は $\frac{2}{2}$	$\frac{4}{2}$
$\frac{2}{4}$	C 又は $\frac{4}{4}$
$\frac{2}{8}$	$\frac{4}{8}$
$\frac{3}{2}$	$\frac{6}{2}$
$\frac{3}{4}$	$\frac{6}{4}$
$\frac{3}{8}$	$\frac{6}{8}$

音符の上方の垂點は音勢の所在を示す。

未完小節 楽曲の始には屢最終小節の拍數と合せてはじめて完全な拍數をなす小節の存在することがある。斯様な拍數不足の小節は之を**未完小節**と稱する。



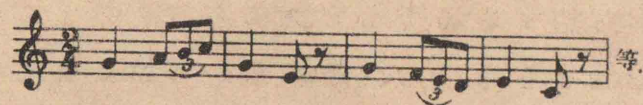
尙樂曲は常に強部からのみ始まるものではなく、又弱部から始まる場合も多數にある。然して樂曲の強部から始まるものは**強起**、弱部から始まるものは之を**弱起**と稱する。(歌曲「里の小川」「遠足」等参照)



拍法 樂曲の拍子を數へる方法は之を**拍法**と稱する。拍法中、口にて一二、一二……又は一二三、一二三……等の如くに其の拍子を唱へつゝ數へるものは**呼節法**又指揮棒(bâton)によつて次圖のごとくに行ふものは之を**拍節法**(又は**指揮法**)と稱する。

二拍子	三拍子	四拍子	六拍子

三連音符 三個の音符を弧線によつて連結し、之に3の數字を配したものは之を**三連音符**と稱し、例へば八分音符三個を八分音符二個と同一歷時に奏唱させるものである。



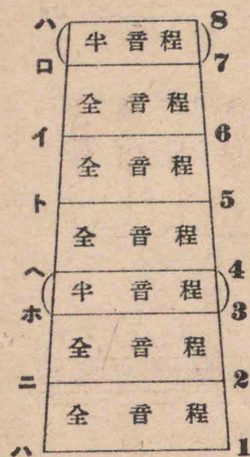
切分音 弱部の音を其の儘次の強部の同音に連結したものは之を**切分音**と稱し、その音勢は弱部に移る。次に其の一例を示す。



音符の上方の垂點は音勢の所在を示す。

8. 音階 (其の一)

或一つの音を基礎として、之より或種の音樂的關係によつて規定された數個の音を其の高低の順序によつて排列したものは之を**音階**と稱し、音樂の種類によ



つて之に相應した各種の音階が存在する。然して各種の音階の中、最も多く使用されるものは長音階と呼ばれるところのものである。

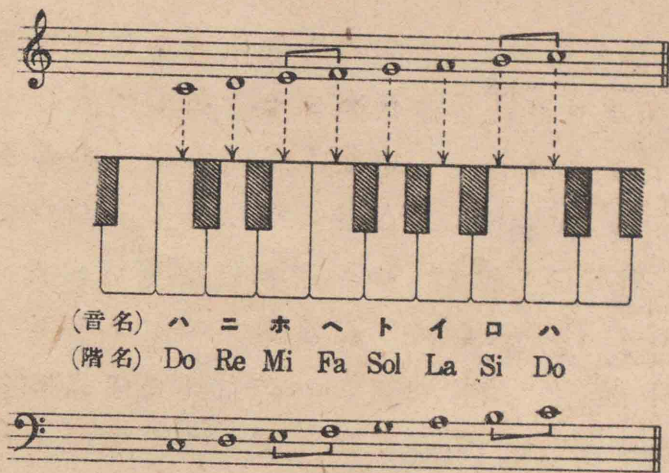
長音階 ハ音より其の八音上方のハ音にいたる基本音の音列の如く、或一つの音を基礎として、之より上方に**全音、全音、半音、全音、全音、全音、半音**の順序に八個の音

を排列したものは之を長音階と稱する。

階名 音階の各音は階名と稱する特別の呼稱によつて歌はれるのを常とする。次に長音階の階名として普通に使用されるものを掲げる。

第一度	第二度	第三度	第四度	第五度	第六度	第七度	第八度
Do	Re	Mi	Fa	Sol	La	Si	Do

ハ調長音階の構成 ハ音を基礎として構成した長音階は之をハ調長音階と稱する。其の音列は基本音のみによつて構成されてゐる。



9. 音程 (其の一)

音程 二音の隔度は之を音程と稱する。

音程の數へ方 音程は譜表上の二音符が互に包容する線と間との數を以て其の度數とし、之に度なる語を附して其の呼稱とする。音程を數へるには、通常下方より上方に向つて行ふ。



10. 變化記號

或音を半音程高くし或は低くする爲に使用する記號は之を變化記號と稱し、次の種類がある。

嬰又は嬰記號 (sharp) 基本音を半音程高くする爲に、其の音符の左側に附記する。

基本音にして此の記號を附記されたものは、例へば嬰へ嬰ハ等の如くに稱へられる。

b 變又は變記號 (flat) 基本音を半音程低くする爲に、其の音符の左側に附記する。

基本音にして此の記號を附記されたものは、例へば變口變ホ等の如くに稱へられる。

尙嬰又は變の附記された音(變化音)を再び其の本來の音(基本音)に復するには、其の音符の左側に記號を附記する。此の記號は之を本位記號(natural)と稱する。

嬰ハ 嬰ニ 嬰ホ 嬰へ 嬰ト 嬰イ 嬰ロ

變ハ 變ニ 變ホ 變へ 變ト 變イ 變ロ

尙變化記號には臨時記號としての用法と調子記號としての用法とがある。

調子記號としての用法 音階の構成上必要な變化記號を一括して音部記號の直次に記載したものは之を調子記號と稱し、此の場合、或一音の爲に附記された變化記號は其の樂曲の同名音全部に對して有效である。(「ト調長音階の構成」等参照)

臨時記號としての用法 變化記號はまた必要に應じて之を樂曲の途中、其の隨所に使用することが出来る。此の場合、之を臨時記號と稱し、之を取消さない限り、同一小節内の同音に對して有效である。

11. 速度標語

樂曲の速度を示す標語は之を速度標語と稱し、通常伊太利語が使用される。

速度標語には樂曲或は樂節の始に於て其の速度を示すものと、又樂曲の途中に於て其の速度の變化を示

すものとの二種がある。次にその重なるものを掲げる。

楽曲或は樂節の始に於て其の速度を示すもの

標語	訓み方	意義
lento	レント	最も緩く
largo	ラルゴ	幅広く且緩く
larghetto	ラルゲット	largo よりも稍早く
adagio	アダージョ	徐かに
andante	アンダンテ	稍緩く (歩むが如く)
andantino	アンダンティノ	andante よりも稍早く (allegretto に近き速度)
moderato	モデラート	中庸速度に
allegro	アレグロ	急速且活潑に
allegro moderato	アレグロモデラート	適度に早く (略 allegro に同じく)
allegretto	アレグレット	allegro よりも稍遅く
presto	プレスト	allegro よりも更に速く
prestissimo	プレスティッシモ	presto よりも更に速く
tempo di marcia	テンポディマルチヤ	行進曲の速度にて (andante 位の速度)

楽曲の途中に於て速度の變化を示すもの

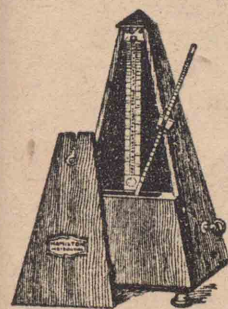
標語	略號	訓み方	意義
ritardando	rit. 又は ritard.	リタルダンド	漸次速度を弛めて
rallentando	rall. 又は rallent.	ラルレンタンド	同上
a tempo		アテンポ	本來の速度にて

他の標語の意味を限定するために用ひられる標語

標語	訓み方	意義
poco	ポコ	少し
meno	メノ	より少く
più	ピウ	より多く
molto	モルト	極めて

拍節機による速度標示

楽曲の速度は又拍節機 (metronome) と稱する機械の使用によつても定められる。





例へば楽曲の始に ♩=126 或は M.M. (Mälzel の metronome の略) ♩=126 等の如くに標識されてある場合には、其の楽曲は、其の楽曲の四分音符一個の速さ一分間の $\frac{1}{126}$ の割合の速度によつて奏唱される。即ち拍節機の振子に裝

着された錘の上邊を數字盤中の所望の數字の處に置いて其の楽曲の速度の基準とする。

12. 發想標語並に發想記號

楽曲は常に其の奏法の緩急強弱等によつて特種の興趣を表出するものであつて、之等の技術的方法に關

係した諸標語並に諸記號は之を發想標語並に發想記號と稱し、主として伊太利語が使用される。次に其の重なるものを掲げる。

標語	略號又は記號	訓み方	意義
piano	p	ピ ア ノ	弱く
pianissimo	pp	ピ ア ニ ッ ス イ モ	極めて弱く
mezzo piano	mp	メ ヅ ヲ ビ ア ノ	稍弱く
forte	f	フ ザ ル テ	強く
fortissimo	ff	フ ザ ル テ イ ッ ス イ モ	極めて強く
mezzo forte	mf	メ ヅ ヲ フ ザ ル テ	稍強く
crescendo	cresc.	クレ シェ ンド	漸次強く
		同 上	同 上
decrescendo	decresc.	デクレ シェ ンド	漸次弱く
		同 上	同 上
diminuendo	dim.	ディ ミ ニ ャ ンド	漸次弱く
smorzando	smorz.	ズ モ ル ツ ンド	漸次弱く且遅く
sforzando	sf 又は fz	ス フ ザ ル ツ ンド	特に強く
	> 又は ^	同 上	同 上
fortepiano	fp	フ ザ ル テ ビ ア ノ	強く直に弱く
maestoso		マ エ ス ト ー ソ	莊嚴に
mosso		モ ヅ ソ	活潑に(早く)

13. 雜記號

○ 延長記號(pause) 音符又は休止符の上方或は下方に附記して、其の長さを適當に延長させる。

— 連合線(tie) 二個の同音の音符に附記して、之を恰も一音符のごとくに奏唱させる。

— 連結線(slur) 高さを異にした二個又はそれ以上の音符に附記して、之を特に圓滑に奏唱させる。

延長記號の使用された例。



連合線の使用された例。

連結線の使用された例。



○ 圓點及び垂點 音符の上方又は下方に附記して、之を其の固有の長さよりも特に短く奏唱させる。

(a) 圓點 (b) 垂點 (c) 圓點と連結線

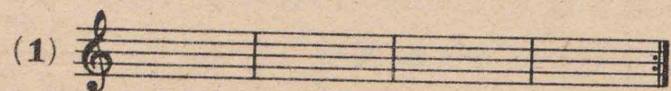
記法

奏法

スタッカート (staccato) スタッカチッシモ (staccatissimo) メ ヅ ヅ ヲ スタッカート (mezzo staccato)

14. 反復記號

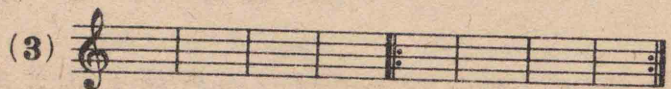
樂曲中の或同一部分を反復させるために使用する諸記號は之を反復記號と稱する。次に各種の反復記號の使用された場合を例示する。



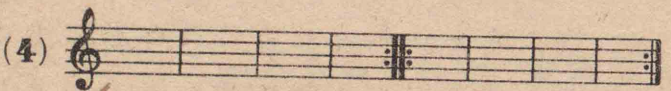
全部を反復させる。



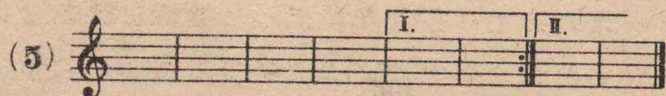
前半部のみを反復させる。



後半部のみを反復させる。



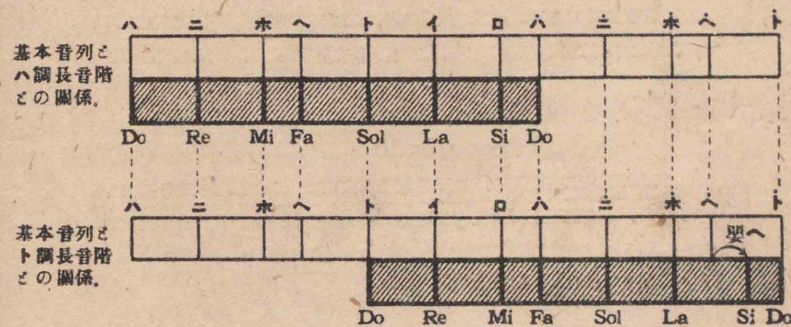
前半部を反復し、更に後半部をも反復させる。



反復に際し、二回目には「I」の部分を用ひることなく直に「II」の部分に進行させる。

15. 音階 (其の二)

ト調長音階の構成 ト音を基礎として構成した長音階は之をト調長音階と稱する。

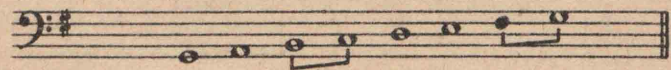


ト調長音階の構成に於ては、上圖の如く基本音列の音程排列はへ音の位置に於て長音階のそれと一致してゐない。故に之を一致させるには、へ音よりも更に半音程高い嬰へ音を以てへ音に代らせなければならない。

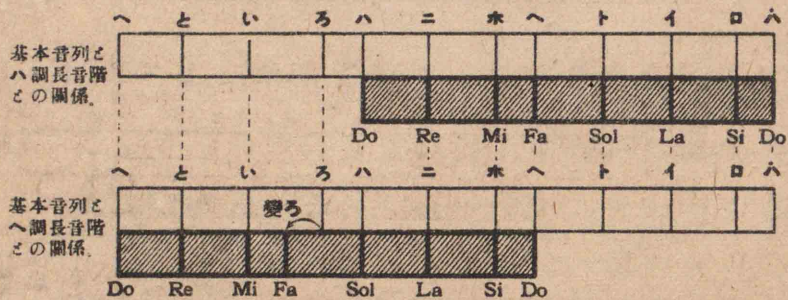
即ち、ト調長音階並に同音階に據つた樂曲を譜表上に記載するには、音部記號の直次に高音部譜表にあつては第五線上に、低音部譜表にあつては第四線上に嬰を附して之を調子記號とし、以てこの場合、すべてのへ音に換へるに嬰へ音の使用されることを明示する。



(音名) ト イ ロ ハ ニ ホ 嬰ト
(階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do



へ調長音階の構成 へ音を基礎として構成した長音階は之をへ調長音階と稱する。



へ調長音階の構成に於ては、上圖の如く基本音列の音程排列はロ音の位置に於て長音階のそれと一致してゐない。故に之を一致させるには、ロ音よりも更に半音程低い變ロ音を以てロ音に代らせなければならぬ。

即ち、へ調長音階並に同音階に據つた樂曲を譜表上に記載

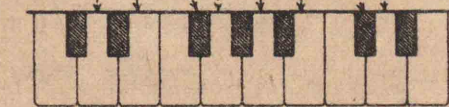
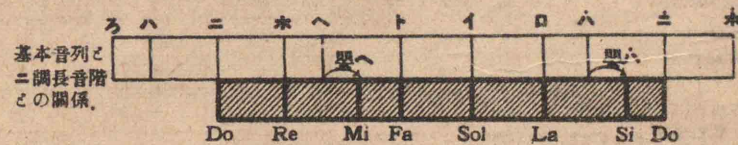
するには、音部記號の直次に、高音部譜表にあつては第三線上に、低音部譜表にあつては第二線上に變を附して之を調子記號とし、以てこの場合、すべてのロ音に換へるに變ロ音の使用されることを明示する。



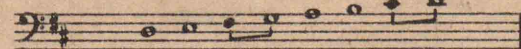
(音名) へ ト イ 嬰ロ ハ ニ ホ へ
(階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do



ニ調長音階の構成 ニ音を基礎として構成した長

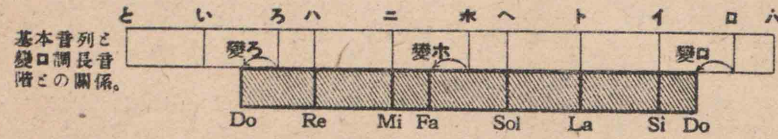


(音名) ニ ホ 嬰ト イ ロ 嬰ニ
(階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do



音階は之をニ調長音階と稱し、其の構成に於ては圖の如く、へ音及びハ音の代りに嬰へ音及び嬰ハ音が使用される。

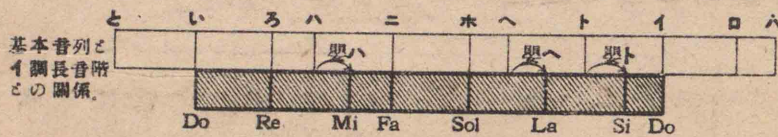
變口調長音階の構成 變口音を基礎として構成し



(音名) 變口 ハ ニ 變ホ ヘ ト イ 變口
(階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do

た長音階は之を變口調長音階と稱し、其の構成に於ては圖の如く、其の第一度を變口音とし、更にホ音の代りに變ホ音が使用される。

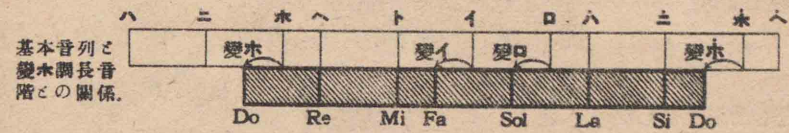
イ調長音階の構成 イ音を基礎として構成した長



(音名) イ 口 嬰ハ ニ * 嬰ヘ 嬰ト イ
(階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do

音階は之をイ調長音階と稱し、其の構成に於ては圖の如く、ヘ音、ハ音及びト音の代りに夫々嬰ヘ音、嬰ハ音及び嬰ト音が使用される。

變ホ調長音階の構成 變ホ音を基礎として構成した長音階は之を變ホ調長音階と稱し、其の構成に於て



(音名) 變ホ ヘ ト イ 變口 ハ ニ 變ホ
(階名) Do Re Mi Fa Sol La Si Do

は圖の如く、其の第一度を變ホ音とし、更に口音及びイ音の代りに夫々變口音及び變イ音が使用される。

16. 音程 (其の二)

全音階的音程 長音階又は短音階等、全音階と稱さ

基礎短音階 音階中、長音階の第六度より其の上方八度の同名音

にいたる八音の音列と全く同一のものは之を基礎短音階と稱し、各種の短音階の基礎となるものである。

れるもの、中に自然に存在する音程は之を**全音階的音程**と稱し、之を其の度数によつて區分するときには十四種、之には更に其の音程の性質によつて**完全、長、短、増、減**等の名稱の附されること次の如くである。



附 録

尙基礎短音階の第七度を變化記號によつて半音程上昇させたものは**和聲的短音階**、又和聲的短音階の上行に於て更に其の第六度を變化記號によつて半音程上昇させたものは之を**旋律的短音階**と稱し、旋律的短音階の下行に於ける第六度及び第七度は概ね基礎短音階のそれと同一である。

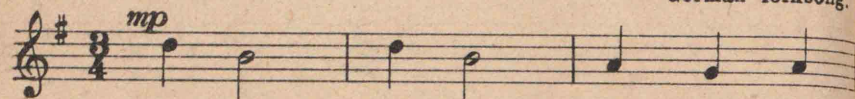


The Cuckoo.

(郭公)

Andantino.

German folksong.



1. Cuck - oo, Cuck - oo, wel - come thy
 2. Cuck - oo, Cuck - oo, war - ble a -
 3. Cuck - oo, Cuck - oo, cease not thy



song ; Win - ter is go - ing,
 way ; Bring the sweet flow - ers,
 song ; When thou art roam - ing,



Soft breez - es blow - ing, Spring - time,
 Sun - shine and show - ers, Spring - time,
 Bright days are com - ing, Spring - time,



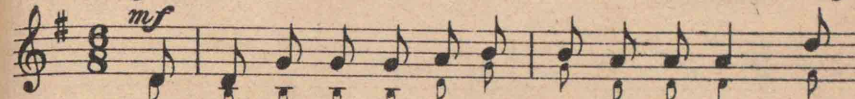
spring - time, soon will be here,
 spring - time, do not de - lay.
 spring - time, ha - sten a - long.

The mill.

(水車)

Allegretto.

German folksong.



1. The mill by the riv - u - let ev - er - more sounds, clip,
 2. The wheel quick - ly turns and then round goes the stone, clip,



clap! By day and by night goes the
 clap! And grinds up the wheat which the



mil - ler his round, clip, clap! He grinds us the corn to make
 farm - er has sown, clip, clap! The bak - er then bakes us fine



nou - rish - ing bread, And when we have that we are
 bis - cuit and cake; Oh, dar - ling good bak - er, such



dain - ti - ly fed. Clip, clap, clip, clap, clip, clap.
 nice things to make! Clip, clap, clip, clap, clip, clap.

The bell is ringing.

(鐘が鳴る)

Allegretto.

Silcher.



Hark! the bell is ring-ing, Calling us to sing-ing,



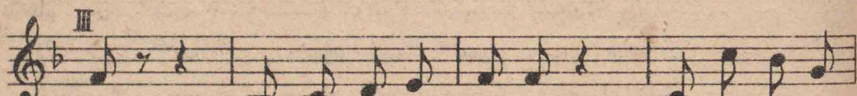
Hear the cheer-ful lay, Come, come, come a - way!



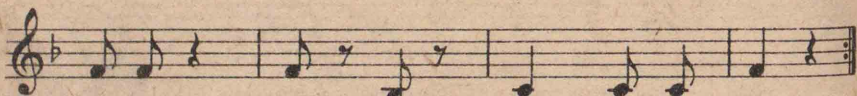
Hark! the bell is ring-ing, Call-ing us to sing-ing,



Hear the cheer-ful lay, Come, come, come a - way!



Hark! hark! the bell is ring-ing, Call-ing us to



sing-ing, Come, come, come, come a - way!

[鑑賞参考曲]
Cradle song.

(子守唄)

Andante.

Brahms.



1. Lul-la - by and good night! With ro - ses be -

2. Lul-la - by and good night! Those blue eyes close



dight; — Creep in - to thy — bed, There
tight, — Bright an - gels are — near, So —



mp
pil - low thy head. If God will thou shalt
sleep with - out fear. They will guard thee from



wake, When the morn - ing doth break, If God
harm, With fair dream - land's sweet charm, They will



pp
will thou shalt wake, When the morn - ing doth break.
guard thee from harm, With fair dream-land's sweet charm,

Old folks at home.

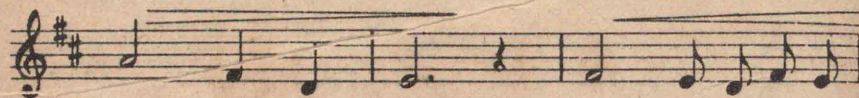
(故郷の人々)

Andante.

Foster.



1. 'Way down up-on de Swa-nee rib-ber,
 2. All 'round de lit-tle farm I wan-dered
 3. One lit-tle hut a-mong de bush-es,



Far, far a-way, Dere's wha' my heart is
 When I was young, Den man-y hap-py
 One dat I love, Still sad-ly to my



turn-ing eb-er, Dere's wha' de old folks stay.
 days I squan-dered, Man-y de songs I sung.
 mem-'ry rush-es, No mat-ter where I rove.



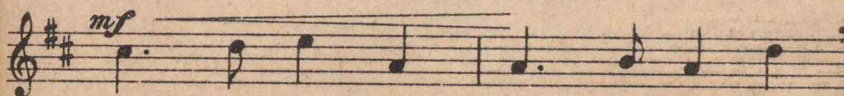
All up and down de whole cre-a-tion,
 When I was play-ing wid my brud-der,
 When will I see de bees a-hum-ming,



Sad-ly I roam, Still long-ing for de
 Hap-py was I, Oh! take me to my
 All 'round de comb? when will I hear de



old plan-ta-tion, And for de old folks at home.
 kind old mud-der, Dere let me live and— die.
 ban-jo tum-ming, Down in my good old— home?



1.- 3. All de world am sad and drea-ry,



Eb-'ry-where I roam, Oh! dar-kies, how my



heart grows wea-ry, Far from de old folks at home.

Auld lang syne.

(別離の歌)

Moderato.

Scotch Air.



1. Should auld ac- quain - tance be for - got, And
 2. We twa ha'e run a - bout the braes, And
 3. We twa ha'e sport - ed i' the burn, Fra



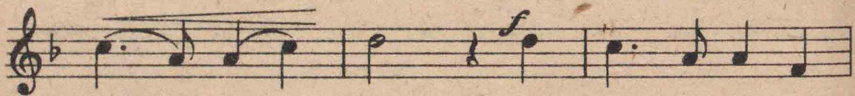
nev - er brought to mind? Should auld ac- quain - tance
 pu'd the gow - ans fine; But we've wan - der'd mony a
 morn-in' sun till dine; But seas be - tween us



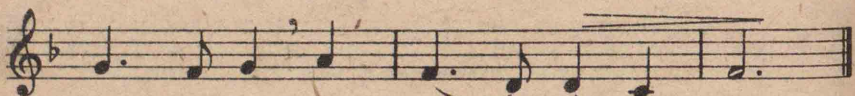
be for - got, And days o' Lang — Syne?
 wea - ry foot Sin' Auld — Lang — Syne.
 braid ha'e roar'd Sin' Auld — Lang — Syne.



1.- 3. For Auld — Lang — Syne, my dear, For



Auld — Lang — Syne, We'll tak' a cup o'



kind - ness yet, For Auld — Lang — Syne.

God save the King.

(英國國歌)

Maestoso.

Carey.



God save our gra - cious King, Long live our



no - ble King, God save the King!



Send him vic - to - ri - ous,



Hap - py and glo - ri - ous, Long to — reign —



o - ver us God — save the King!

My country.

(米國國歌)

Maestoso. *mf*

My coun - try! 'tis of thee, Sweet land of

lib - er - ty, Of thee I sing;

Land where my fa - thers died!

Land of the Pil - grim's pride! From ev - 'ry

moun - tain - side, Let free - dom ring.

滿洲國國歌

Maestoso. [$\text{♩} = 66$]

滿洲國文教部 撰定

天 地 內 有 了 新 滿 洲 新 滿 洲
ティエン ティー ホーイ イョウリャオ シン ムン チョウウ シン ムン チョウウ

便 是 新 天 地 頂 天 立 地 無 苦 無 憂
ビエン シー シン ティエン ティー ティエン ティエン リー ティー ウー クー ウー イウ

造 成 我 國 家 只 有 親 愛 並 無 怨 仇
ツォオ チョーエン ウワ クワウ チョー チー アウ チョーエン アイ ビン ウーユアーン チョウイ

人 民 三 千 萬 人 民 三 千 萬 縱 加 十 倍
リェン シーエン サン チュンワン リェン シーエン サン チュンワン ツォン チョー シー ペーイ

poco rit. *p*

也 得 自 由 重 仁 義 尚 禮 讓 使 我 身 修
イェー トウ フウ イウ チョン リェン イー ション リー レン シー クワ シュン シウ

家 已 齊 國 已 治 此 外 何 求 近 之 則 與
チア イー チー クワ イー ツー フー ヴァーイ ホウ チウ チョン ツー ツォー ユー

世 界 同 化 遠 之 則 與 天 地 同 流
シー チェー トン ホウ ユアーン ツー ツォー ユー ティエン ティー トン リウ

君が代

♩ = 69. 林 廣 守

p キ ミ ガ ー ヨ ー ハ

mf チ ヨ ニ ー ヤ チ ヨ ニ サ デ レ

f *mf* イ シ ノ イ ハ ホ ト ナ リ テ

コ ケ ノ ム ー ス ー マ ー デ

君が代は
古 歌

ちよにやちよに
さざれいしの

巖となりて
こけのむすまで

勅語奉答

♩ = 84. 小山作之助

p *mf* ア ヤ ニ カ シ コ キ ス メ ラ ギ ノ ー ア ヤ ニ

タ フ ト キ ス メ ラ ギ ノ ア ヤ ニ タ フ ト ク

f カ シ コ ク モ ー ク ダ シ タ マ ヘ リ オ ホ ミ コ ト

♩ = 100. *p* コ レ ズ メ デ タ キ ヒ ノ モ ト ノ ー
コ レ ズ メ デ タ キ ヒ ノ モ ト ノ ー

mp *rit.* ク ニ ノ ラ シ ヘ ノ モ ト キ ナ ル
ヒ ト ノ ラ シ ヘ ノ カ ガ ミ ナ ル

♩ = 84. *mf* ア ヤ ニ カ シ コ キ ス メ ラ ギ ノ ー ミ コ ト

ノ マ マ ニ イ ソ シ ミ テ ア ヤ ニ タ フ ト キ

molto rit. ス メ ラ ギ ノ ー オ ホ ミ コ コ ロ ニ コ タ ヘ マ ー ツ ラ ム

あやに畏き 天皇の
あやに尊き 天皇の
あやに尊く 畏くも
下し賜へり 大勅語
是ぞめでたき 日の本の
國の教の 基なる
是ぞめでたき 日の本の
人の教の 鑑なる
あやに畏き 天皇の
勅語のままに 勤みて
あやに尊き 天皇の
大御心に 答へまつらむ

勅語奉答

勝安芳

一雲に聳ゆる高千穂の
高根おろしに草も木も
靡きふしけん大御世を
仰ぐ今日こそ樂しけれ
二海原なせる埴安の
池の面より猶ひろき
恵の波に浴みし世を
仰ぐ今日こそ樂しけれ
三天つひつぎの高みくら
千代萬代に動きなき
基定めしそのかみを
仰ぐ今日こそ樂しけれ
四空にかがやく日の本の
萬の國にたぐひなき
國のみはしらたてし世を
仰ぐ今日こそ樂しけれ

紀元節

高崎正風

紀元節

伊澤修二

♩ = 80. *mf*

一. ク モ ニ ソ ビ ユ ル タ カ チ ホ ノ
二. う な ば ら な ー せ る は に や す の
三. ア マ ッ ヒ ツ ギ ノ タ カ ミ ク ラ
四. そ ら に か が や く ひ の も と の

タ カ ネ オ ロ シ ニ ク サ モ キ モ
い け の お お も よ り な ほ ひ ろ き
チ ヨ ヨ ロ ツ ー ヨ ニ ウ ゴ キ ナ キ
よ ろ づ の く ー に に た ぐ ひ な き

ナ ビ キ フ シ ケ ソ オ ホ ミ ヨ フ
め ぐ み の な ー み に あ み し よ を
モ ト キ サ タ メ シ た ソ ノ カ ミ を
く に の み は し ら た て し よ を

ア フ グ ケ フ コ ソ タ ノ シ ケ レ
あ ふ ぐ け ふ こ そ た の し け れ
ア フ グ ケ フ コ ソ タ ノ シ ケ レ
あ ふ ぐ け ふ こ そ た の し け れ

一月一日

♩ = 96. 上 眞行

mf

一. ト シ ノ ハ ジ メ ノ タ メ シ ト テ
二. は つ ひ の ひ ー かり さ し い で て

ヲ ハ リ ナ キ ヨ ノ メ デ タ サ ラ
よ も に か が や く け さ の そ ら

マ ツ タ ケ タ テ テ カ ド ゴ ト ニ
き ー み が み か げ に た ぐ へ つ つ

イ ハ フ ケ フ コ ソ タ ノ シ ケ レ
あ ふ ぎ み る こ そ た ふ と け れ

一 一年のはじめの例として
終なき世のめでたさを
松竹たてて門ごとに
祝ふ今日こそ楽しけれ

二 初日の光さしいでて
四方に輝く今朝の空
君がみかげに比へつつ
あふぎ見るこそ尊けれ

一月一日

千家尊福

天長節

♩ = 96. 奥 好義

mf

ケ フ ノ ヨ キ ヒ ハ オ ホ キ ミ ノ ー
ケ フ ノ ヨ キ ヒ ハ ミ ヒ カ リ ノ ー

ウ マ レ タ マ ヒ シ ヨ キ ヒ ナ リ
サ シ デ タ マ ヒ シ ヨ キ ヒ ナ リ

ヒ カ リ ア マ ネ キ キ ミ ガ ヨ ラ
メ グ ミ ア マ ネ キ キ ミ ガ ヨ ラ

イ ハ ヘ モ ロ ビ ト モ ロ ト モ ニ
イ ハ ヘ モ ロ ビ ト モ ロ ト モ ニ

天長節

黒川眞頼

今日の吉日は大君の
生れ給ひし吉日なり

今日の吉日は御光の
さして給し吉日なり

光あまねき君が代を
いはへもろ人諸共に

恵あまねき君が代を
祝へ諸人もろともに

明治節

♩ = 96.

文部省 撰定



一. ジ ヤ ノ ヒ ガ シ ヒ イ ツ ル ト コ ロ
 フ ル キ ア メ ツ チ ト ザ セ ル キ コ リ
 二. め ぐ み の な み は や し ま に あ ま り
 か み の よ さ せ る み わ ざ を ひ ろ め
 三. ア キ ノ ソ ラ ス ミ キ ク ノ カ タ カ キ
 サ ダ メ マ シ ケ ル ミ ノ リ ラ ア ガ メ



ヒ ジ リ ノ キ ミ ノ ア ラ ハ レ マ シ テ
 オ ホ ミ ヒ カ リ ニ ク マ ナ タ ハ ラ ヒ テ
 み い つ の か ぜ 一 は う な ば ら こ え し
 た み の さ か ゆ く ち か ら を の ば し
 ケ フ ノ ヨ キ ヒ ラ ミ ナ コ ト ホ ギ テ
 サ ト シ マ シ ケ ル ミ コ ト ラ マ モ リ



ヲ シ ヘ ア マ ネ ク ミ チ ア キ ラ ケ ク
 と つ く に ぐ に 一 の ふ み に も し る く
 ヨ ヨ ギ ノ モ リ ノ ヨ ヨ ト コ シ ヘ ニ



ヲ サ メ タ マ ヘ ル ミ ヨ タ フ ト
 と ど め た ま へ る み な か し こ
 ア フ ギ マ ツ ラ ン オ ホ ミ カ ド

明治節

文部省 撰定

一 亞細亞の東日出づる處 聖の君の現れまして
 古き天地とぞせる霧を 大御光に限なくはらひ
 教へたまねく道明らけく 治めたまへる御代尊

二 惠の波は八洲に餘り 御稜威の風は海原越えて
 神の依させる御業を弘め 民の榮行く力を展ばし
 外つ國國の史にも著く 留めたまへる御名畏

三 秋の空すみ菊の香高き 今日の上き日を皆ことほぎて
 定めましける御意を崇め 諭しましける詔勅を守り
 代代木の森の代代長へに 仰ぎまつらん大帝

創立記念日

Allegro.

瀧田 卯夫

一. ウーレーシ ウーレーシ ケフノヨ キヒ
 ニ. た一のし た一のし けふのよ きひ
 ウーレーシ ウーレーシ コノヨキ ヒ
 た一のし た一のし このよき ひ
 mp
 ワレラガ マナビヤ ハジメテ ターチーシ
 ひにひに あらたに ひかりを そーへーて
 mf rit
 キネンノ イハヒビ メ グリーキー ス
 まなびの そのみぞ さかえーゆーく
 a tempo
 ワレラガヨロ コ ビナニ ニ カタグー ヘ ンを
 いはひてうた へ やめで たきこのひ
 ワレラガウレ シ サナニ ト カイ ハ ン
 うたひていは へ やめで たきこのひ

創立記念日

一 嬉し嬉し 今日の佳き日
 嬉し嬉し この佳き日
 我等が學校 創めて立ちし
 記念の祝日 めぐり來ぬ
 我等がよろこび 何にかたぐへん
 我等が嬉しさ 何とか言はん
 二 樂し樂し 今日の佳き日
 樂し樂し この佳き日
 日に日に新に 光を添へて
 學の園生ぞ 榮え行く
 祝ひて歌へや めてたき此の日を
 歌ひて祝へや めてたき此の日

萬 歲

萬歲 萬歲 萬歲
 仰げばたふと大和島根
 吹く風も降る雨も
 聖天子の御代を壽ぐ
 起て起て益荒男
 榮行く帝の御楯と
 行け行け男子等
 榮ある御國の守と
 仰げ仰げ帝の御稜威
 祝へ祝へ御國の榮
 ああ ああ あ 萬萬歲
 森 迫 武

萬 歳

Moderato.

Bellini.

パン ザイパン ザイパン ザイ ア フ ゲ バ タ フ ト ヤ マ ト

シ マ ネ フ ク カ ゼ モ フ ル ア メ モ ヒ ジ

リ ノ ミ ヨ ラ コ ト ホ グ タ テ タ テ マ ス
ユ ケ ラ ノ

ラ ラ サ カ ユ ク ミ カ ド ノ ミ タ テ ト ユ ケ
コ ラ ハ エ ア ル ミ ク ニ ノ モ リ

ト ア フ ゲ ア フ ゲ ミ カ ド ノ ミ イ ツ イ ハ
ヘ イ ハ ヘ ミ ク ニ ノ サ カ

エ ア ア ア ア ア パン パン ザイ

み た み わ れ
み た み わ れ い け る し ろ し

あ り あ め つ ち の さ か ゆ る

し と き に あ へ る く お も へ ば

ラ ッ タ ラ

轟々と雲に鳴るつばさつば

さ大編隊突き入るや敵
の空見ろ見ろ地平傾けは

用意たちまち將兵が

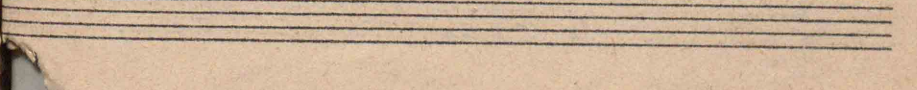
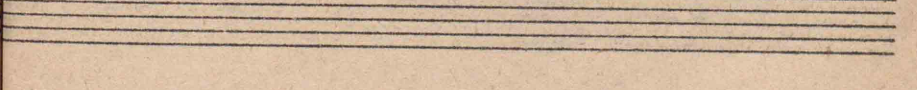
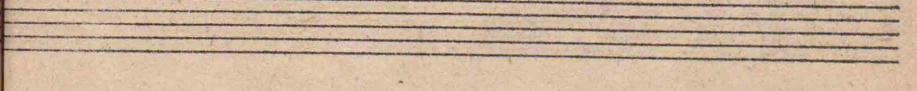
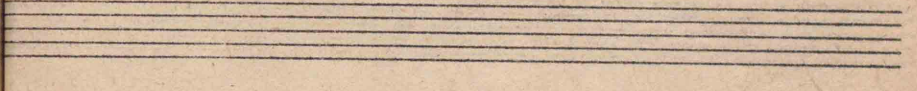
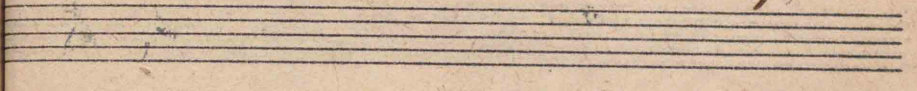
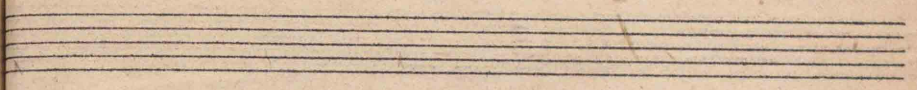
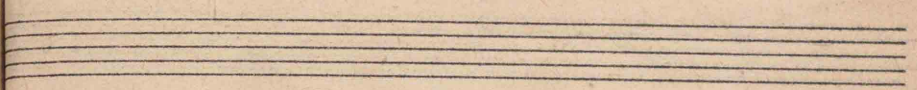
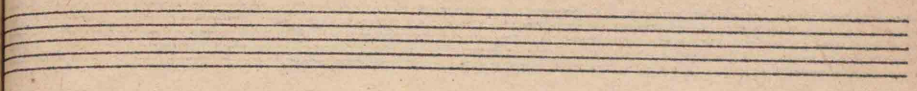
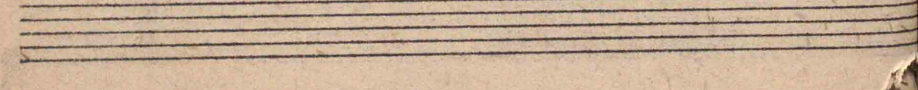
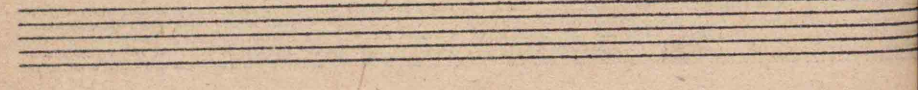
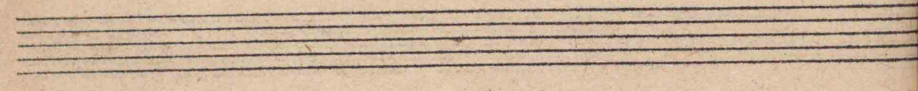
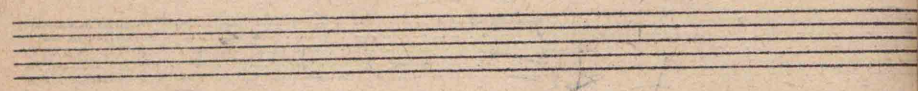
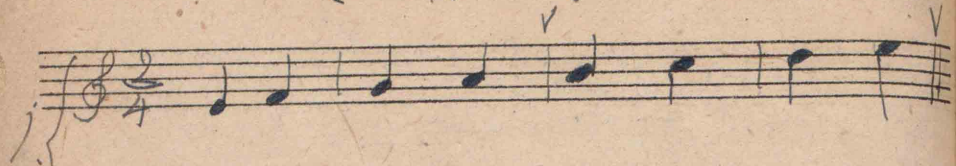
決死の瞳澄みわたる

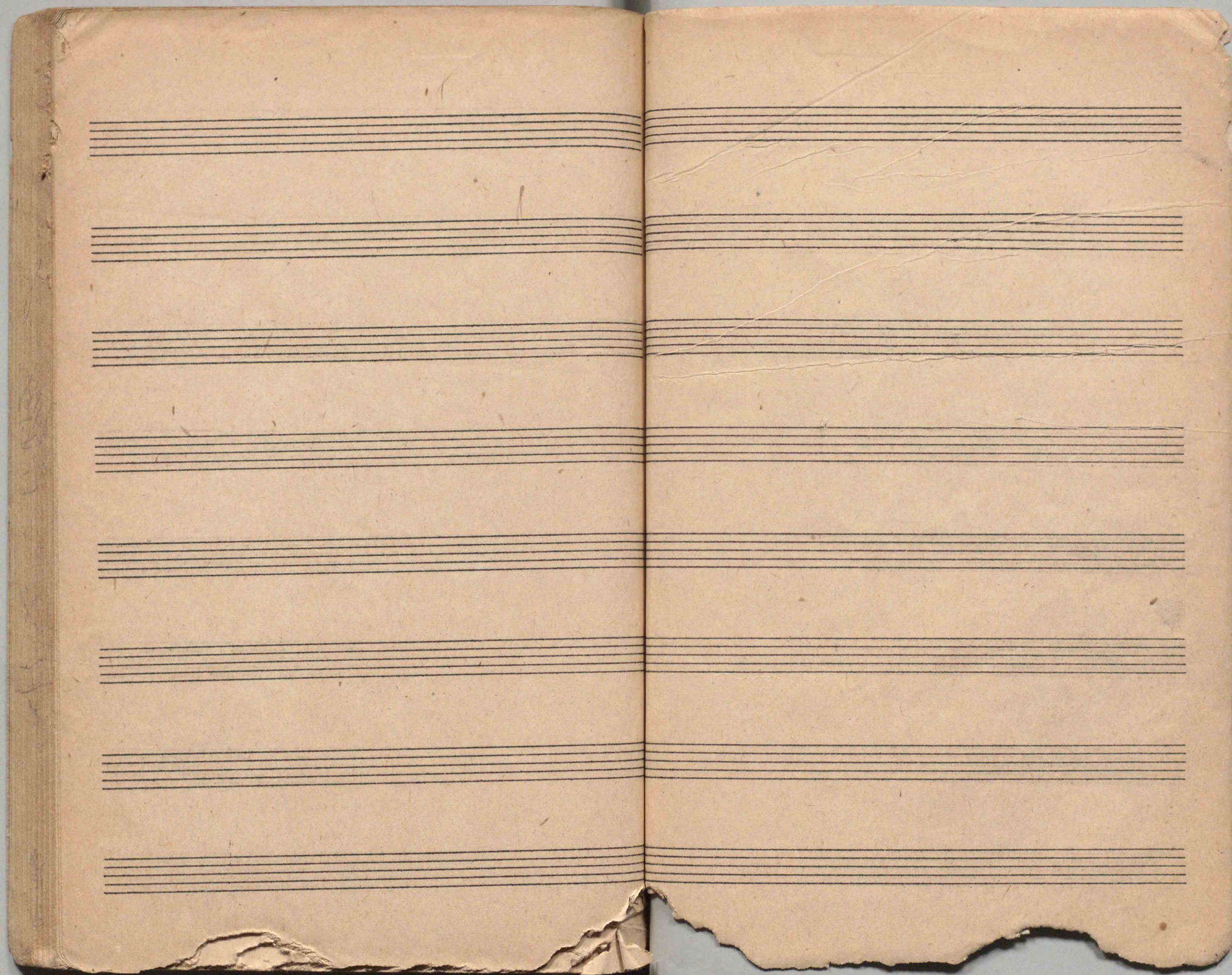
燃ゆる大字

燃ゆる大空 氣流だ 雲だ
 あがるぞかけるぞ はやこの如く
 爆音正しく高度を 持して
 輝くつばまむかひと きそ
 航路日本 皇征人 われる
 機翼どよもす 嵐だ 雨だ
 きらめく フロペラ 直先かいて
 皇國に 捧ぐる 雄たしき 命
 無敵のつばさよ はつるが
 斗の志は つきぬ 精銳 われる

燃ゆる大空 氣流だ 雲だ
 あがるぞかけるぞ はやこの如く
 爆音正しく高度を 持して
 輝くつばまむかひと きそ
 航路日本 皇征人 われる
 機翼どよもす 嵐だ 雨だ
 きらめく フロペラ 直先かいて
 皇國に 捧ぐる 雄たしき 命
 無敵のつばさよ はつるが
 斗の志は つきぬ 精銳 われる

合唱練習





四幸御魂

あゝ一億の由衣み新る

皇國は永遠に

千木高く輝くところ

幸は下りて

神

ハニ木トハ木ニハ

ハニ木ニ木ニハ

昭和九年九月二十三日印刷
 昭和九年十一月二十六日修正再版印刷
 昭和十年十一月五日修正再版發行

新男子音楽教科書第一編
 定價金五拾五錢

(略名) 共益若狭音楽

著者 若狭萬次郎

發行者 東京市麹町區飯田町二丁目二十番地 中等學校教科書株式會社

印刷者 東京市神田區錦町三丁目十四番地 柴田庄次郎

發行所 東京市麹町區飯田町二丁目二十番地 中等學校教科書株式會社

日本出版文化協會會員番號 一一七五二二

配給元 日本出版配給株式會社
 東京市神田區淺路町二丁目九番地

1919.11.8

校

歌

一、封建盛時の面影のこす

鶴山城跡の威容を望み

椿ヶ丘の上聳ゆるいちか

いざやたつへん津中の雄姿

二、我等が先進幾多の英士

偉業はかくかく千古に傳ふ

郷土の誇を背負ひて立てる

津中健兒の侠命は重し

第一学年二組
安達俊夫

Adate Josio

広島大学図書

0130449399

